



Kawasaki

保存版

'94 model

オーバー



ウォータークラフト **jet[®]ski** 取扱説明書

jet[®]ski は川崎重工業株式
会社の登録商標です。

JET[®]
STAR

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータークラフト“ジェットキー”をご購入下さいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させて下さい。

この取扱説明書は、あなたのウォータークラフト“ジェットキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得して下さい。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータークラフト“ジェットキー”的魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守って下さい。

本編は安全かつ効果的な作業が行えるように、次のシンボルマークを使用して注意書きしています。

▲注意

- 作業手順や方法を誤ると、危険を伴うことを示しています。

注意

- 作業手順や方法を誤ると、ウォータークラフト“ジェットキー”的部品やその他の装置に損傷を与えることを示しています。

〈要点〉

- 効果的な作業を行うための要点を示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、予めご了承ください。

目 次

| | |
|------------------------|----|
| 主要諸元 | 3 |
| 一般事項 | 4 |
| 製造番号 | 4 |
| 各部の名称 | 4 |
| ラベル位置 | 5 |
| 警告灯と指示灯 | 5 |
| 燃 料 | 6 |
| エンジンオイル | 7 |
| 操縦装置 | 7 |
| シートラッチ | 11 |
| 備品入れ | 11 |
| 小物入れ | 12 |
| 工 具 | 13 |
| ドレンプラグ | 13 |
| 操縦方法 | 14 |
| 安全な操縦 | 14 |
| 乗る前の点検項目 | 16 |
| ならし運転 | 17 |
| エンジンの停止 | 18 |
| エンジンの始動 | 18 |
| 発 進 | 20 |
| 停 止 | 21 |
| 旋 回 | 22 |
| 後 進 | 23 |
| 着 岸 | 23 |
| ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方 | 24 |
| 航走終了後の手入れ | 25 |
| 特殊な手入れ | 26 |
| 運 搬 | 30 |
| 保 管 | 31 |
| 保管する前の作業 | 31 |
| 保管後再使用する前の作業 | 33 |
| 整備と調整 | 34 |
| 定期整備表 | 34 |
| コントロールケーブルの調整 | 35 |
| 燃料、エンジンオイル系統 | 38 |
| スパークプラグ | 41 |
| バッテリ | 41 |
| 潤 滑 | 43 |
| 冷却系統の洗浄 | 44 |
| ビルジ系統の洗浄 | 45 |
| トラブルシューティング | 47 |
| 船舶検査 | 49 |
| 航行区域 | 50 |

主要諸元

ウォータークラフト“ジェットスキー” JT750-A1

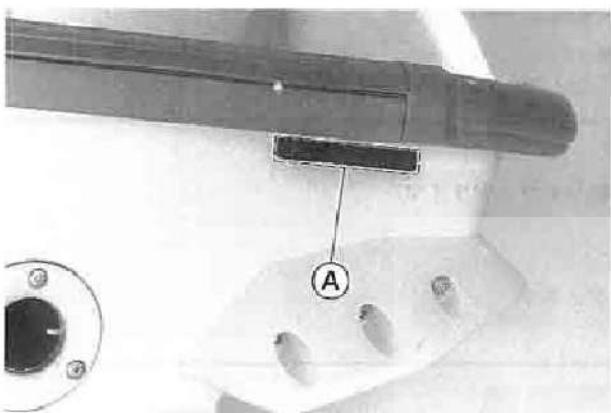
| | |
|----------------|-------------------------------------|
| エンジン | |
| 型 式 | 2ストローク、2気筒、クランクケースリードバルブ、水冷 |
| 排気量 | 743 cc |
| 内径×行程 | 80.0×74.0 mm |
| 圧縮比 | 7.0 : 1 |
| 点火方式 | CDI (デジタル) |
| 潤滑方式 | 分離給油式 |
| キャブレタ | ケイビン CDK 40-34 |
| 始動方式 | スタータモーター |
| スパークプラグ | NGK BR8ES |
| ギャップ | 0.7~0.8 mm |
| 点火時期 | 上死点前13° @1,250 rpm ~ 16° @2,500 rpm |
| 動力伝達機構 | |
| カブリング | エンジン直結シャフトドライブ |
| ジェットポンプ：型 式 | 軸流、単段 |
| ：推 力 | 270 kg |
| ステアリング | ステアリングノズル |
| ブレーキ | 水の抵抗力 |
| 性能 | |
| 連続最高出力 | 67 PS / 6,250 rpm |
| 連続最大トルク | 8.0 kg-m / 5,500 rpm |
| 最小旋回半径 | 3.6 m |
| 燃料消費量 | 26 ℥ / h (フルスロットル運転時) |
| 航続距離 | 115 km (3名乗船・フルスロットル運転時) |
| 航続時間 | 1時間46分 |
| 寸法・重量 | |
| 全 長 | 3,100 mm |
| 全 幅 | 1,180 mm |
| 全 高 | 990 mm |
| 乾燥重量 | 240 kg |
| 燃料タンク容量 | 46 ℥ (予備7.5 ℥を含む) |
| エンジンオイル | |
| タ イ プ | カワサキジェットスキー純正オイル(2サイクルエンジンオイル) |
| オイルタンク容量 | 2.3 ℥ |
| 電 装 品 | |
| バッテリ | 12 V 19 Ah |

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

製造番号

- 船体及びエンジン番号は、あなたのウォータークラフトを表す番号です。
この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。
下のそれぞれの空欄に記録して下さい。



A. 船体番号

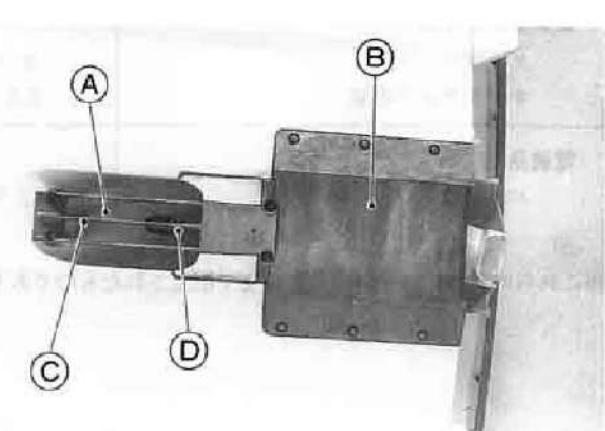
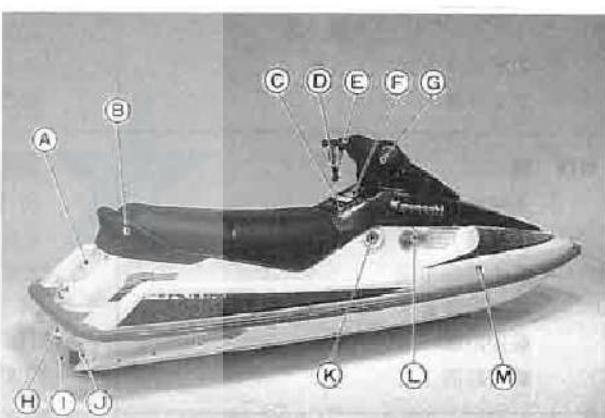
| | |
|------|--|
| 船体番号 | |
|------|--|

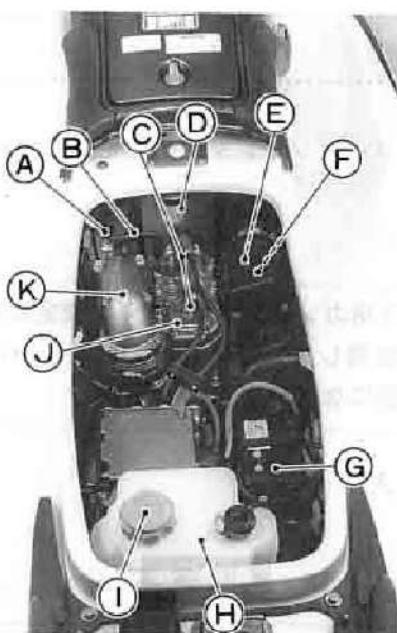


A. エンジン番号

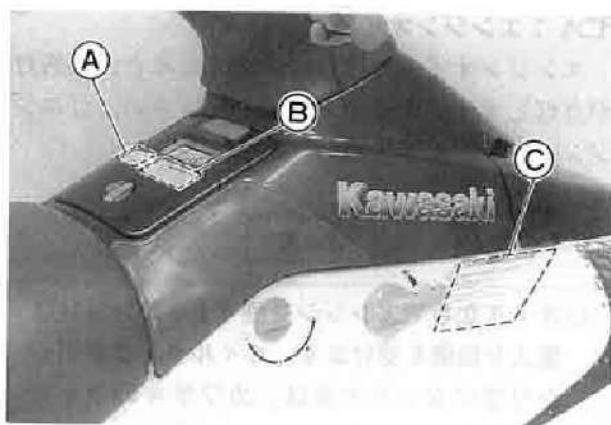
| | |
|--------|--|
| エンジン番号 | |
|--------|--|

各部の名称

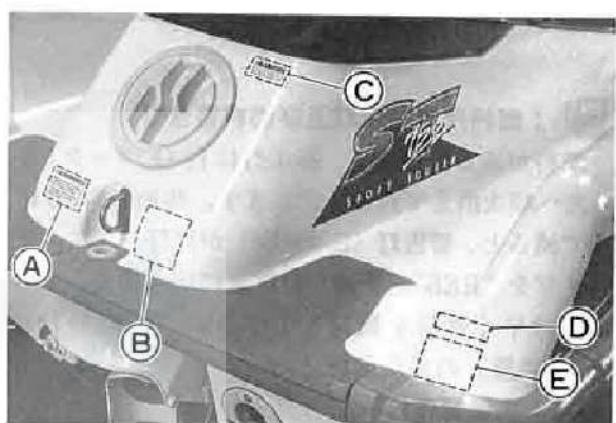




A. ドレンバルブノブ
B. 冷却ホース
C. スパークプラグ
D. セジメントボール
E. フレームアレスタ
F. キャブレタ
G. バッテリ
H. オイルタンク
I. オイルタンクキャップ
J. シリンダーヘッド
K. エグゾーストパイプ

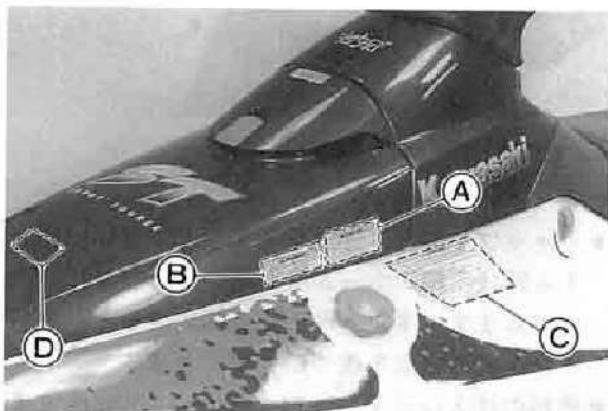


A. キルスイッチコード
B. オーバーヒート
C. 操縦時



A. リバースバケット
B. ジェットポンプ点検
C. グリップ
D. 3名乗船時
E. 最大搭載人員

ラベル位置



A. エンジンオイル・ならし運転
B. 燃料注入
C. 操縦時
D. ラッチ

警告灯と指示灯

● シートの前方に警告灯・指示灯パネルがあります。



A. エンジンオイル警告灯
B. 燃料警告灯
C. 燃料残量指示灯
D. 水温警告灯

: エンジンオイル警告灯

エンジンオイルの残量が少なくなると、警告灯が点灯します。オイルを補給して下さい。（「エンジンオイル」の項参照。）

注意

- オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

: 燃料残量指示灯及び燃料警告灯

燃料が減るに従って、指示灯は右(Fマーク)から左へ順次消えて残量を示します。残量が約7.5 ℥まで減ると、警告灯(Eマーク)が点灯します。燃料ノブを“RES”(予備)の位置に切り換え、できるだけ早く燃料を補給して下さい。（「燃料」と「操縦装置」の各項参照。）

: 水温警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると、警告灯が点灯します。また、同時にエンジンの回転も下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっているか点検して下さい。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

注意

- エンジンがオーバーヒートすると、警告灯が点灯してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

燃料

- レギュラーガソリンを使用して下さい。

注意

- レース用ガソリンや添加物等、規定以外のものは使用しないで下さい。エンジンの故障の原因になります。

燃料の注入

注意

- ガソリンは非常に引火性が強く、条件によつては爆発する恐れがあります。スタータロッカスイッチを押し込み、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- 燃料タンクはバウ（船首）内部にあり、燃料注入口は船首左側にあります。



A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入して下さい。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 燃料の注入は必ず注入口上部から100mm位までの量にして下さい。

▲注意

○燃料をタンク一杯に注入しないで下さい。
温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、
ベントチューブから溢れる事があります。
注入後はキャップを確実に締めて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

▲注意

○気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

注意

○オイルなしでエンジンを回すと、エンジンは重大な損傷を受けます。オイルタンクがすっかり空になったときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でオイル系統の空気抜きをしてもらって下さい。

〈要点〉

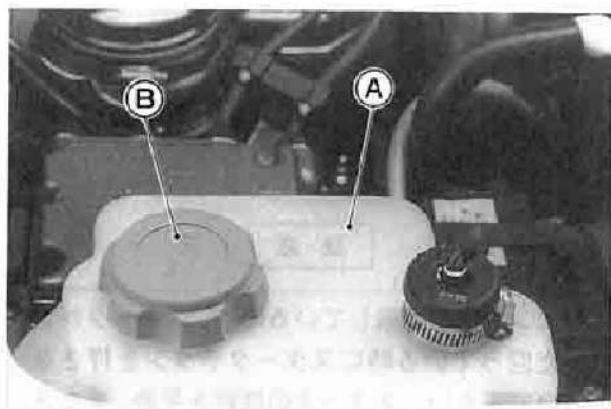
○ならし運転期間中は、特別潤滑用にガソリンとオイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。「操縦方法」の章を参考して下さい。

エンジンオイル

- カワサキジェットスキー純正オイル（2サイクルエンジンオイル）を使用して下さい。

オイルの注入

- エンジンオイルタンクは、エンジルームにあります。

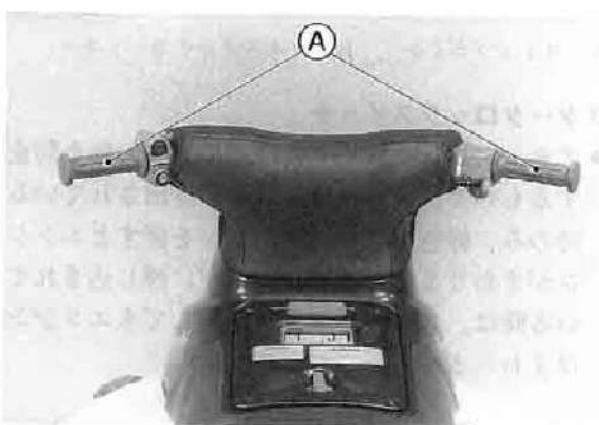


A. エンジンオイルタンク B. オイル注入口キャップ

- シートを外し、キャップを開けてエンジンオイルを入れます。

操縦装置

ステアリングハンドルバー

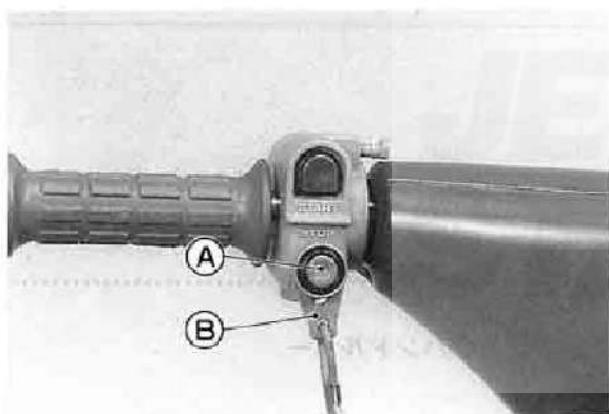


A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを押している時のみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータークラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータークラフト後部のジェットノズルとつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。



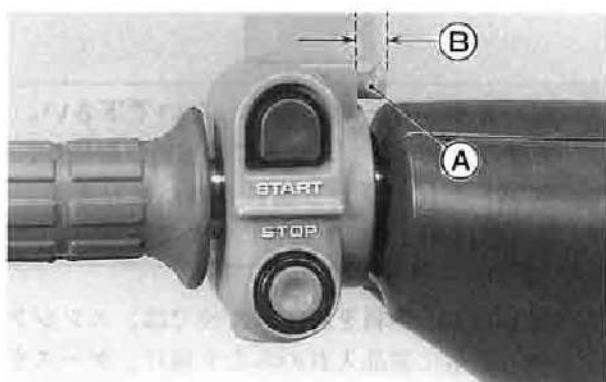
A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スタータロックスイッチ

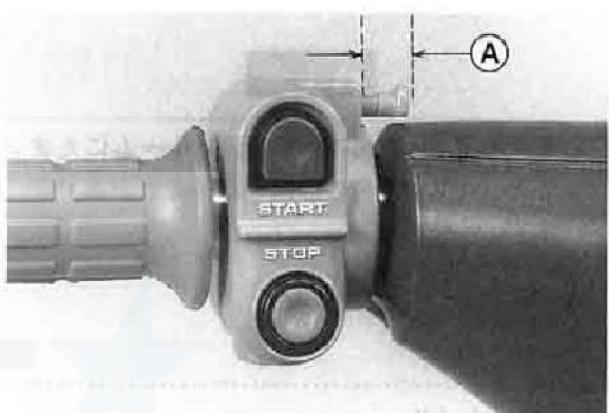
- スタータロックスイッチは不用意な始動を防止するもので、スイッチが外に引き出されている時のみ、緑色のスタータボタンを押すとエンジンがまわります。スイッチが中に押し込まれている時は、スタータボタンを押してもエンジンはまわりません。

▲注意

- 不用意にエンジンが回転し、事故が発生するのを防ぐために、エンジンが回転していない時は、常にスタータロックスイッチを中に押し込んだ位置にしておいて下さい。



A. スタータロックスイッチ B. 始動不可能位置



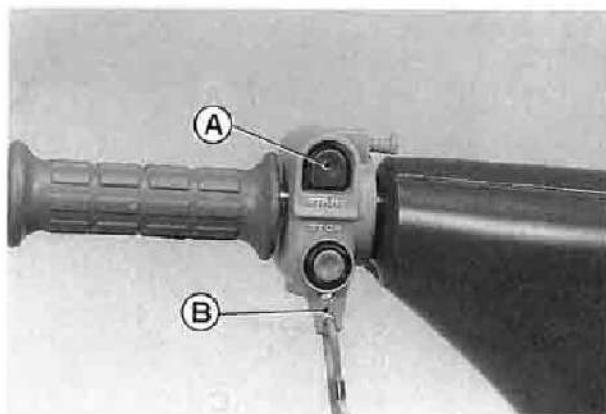
A. 始動可能位置

スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始まるとボタンを放して下さい。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転しますが始動しません。

注意

- エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時にスタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



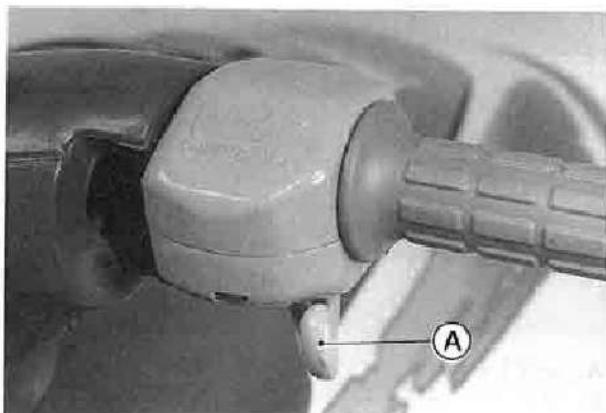
A. スタータボタン B. キルスイッチコードキー

〈要 点〉

- スタータボタンは、スタータロックスイッチが外に引き出されている時のみ作動します。
- エンジンが始動するためには、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照して下さい。

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを前方に押すとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより後方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検して下さい。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参考下さい。



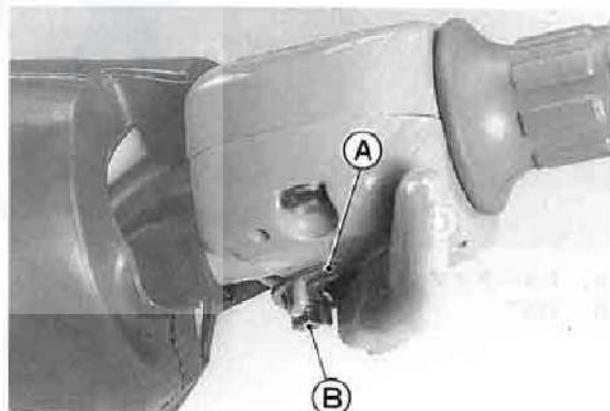
A. スロットルレバー

スロットルリミッタ

- ウォータークラフトには、初心者の為に最大エンジン出力を低減するスロットルリミッタが付いています。リミッタは、スロットルレバーの作動範囲を制限する働きをします。ロックboltを緩めて、リミッタを前後に動かして下さい。前方に動かすと最大出力が減少し、反対になると最大出力が増加します。

注 意

- スロットルリミッタを調整する時は、周囲にポート等のいない所でスロットルの変化を確認して下さい。
- 水から外に出した状態でエンジンをふかしてリミッタの調整をしてはいけません。エンジンが損傷するおそれがあります。



A. スロットルリミッタ B. ロックボルト

- スロットルリミッタを調整した後は、ロックボルトを確実に締めつけて下さい。

A 注意

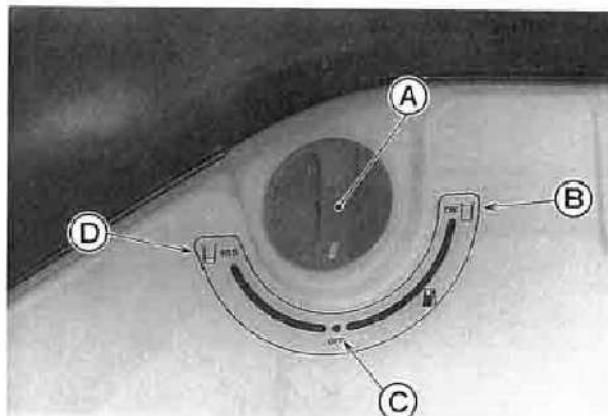
- スロットルリミッタ調整後、必ずロックボルトを締めて下さい。もし、リミッタが動くと、操縦者が初めに意図したよりも大きくスロットルが開くことになります。

チョークノブ

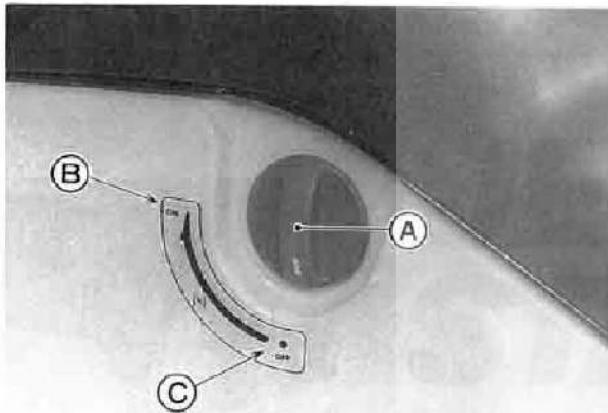
- チョークノブはステアリングハンドルバー下のデッキの左側に付いています。チョークノブを右へいっぱいまわすと（“ON”位置）、混合気が濃くなって始動が容易になります。始動後はチョークノブを左へいっぱいい（“OFF”位置）に戻してください。

〈要点〉

- もし、チョークノブがエンジン始動後も右へまわしたままになっていると、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因になります。



A. 燃料ノブ
B. “ON”
C. “OFF”
D. “RES”



A. チョークノブ
B. “ON”
C. “OFF”

燃料ノブ

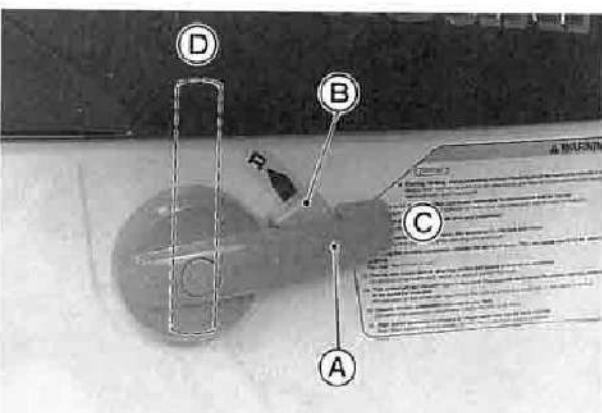
- 燃料ノブはステアリングハンドルバー下のデッキの右側にあります。このノブには、“ON” “OFF” “RES”（予備）の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は（燃料警告灯が点灯する）、ノブをRESに切り換える事により約7.5 ℥の予備燃料が使えます。RESに切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約17分間運転できます。

〈要点〉

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”の位置にして下さい。

シフトレバー

- このウォータークラフトは、スターン（船尾）のステアリングノズルについたバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換のシフトレバーは、デッキの右側、燃料ノブの前方にあります。シフトレバーは“F（前進）”と“R（後進）”の二段階になっています。

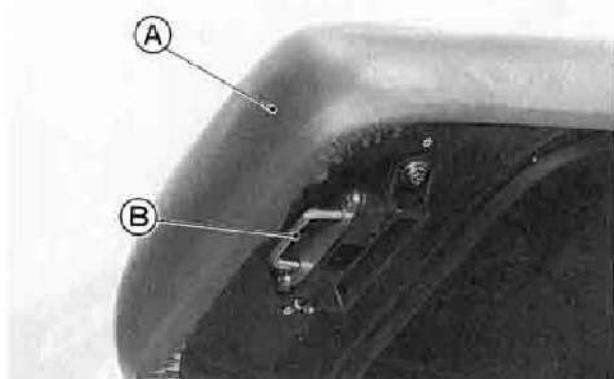


A. シフトレバー
B. ノブ
C. “F（前進）”
D. “R（後進）”

- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。
- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落として下さい。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

▲注意

○高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのパウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。



A. シート

B. ラッチハンドル

- ウォータークラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックして下さい。
- シート後方のグリップは水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーを引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、このグリップをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。

注意

○グリップをもってウォータークラフトを持ち上げたり、グリップにロープ等をかけないで下さい。

シートラッチ

- シートの後端下側のラッチを外すと、シートを取り外すことができます。

シートの外し方：

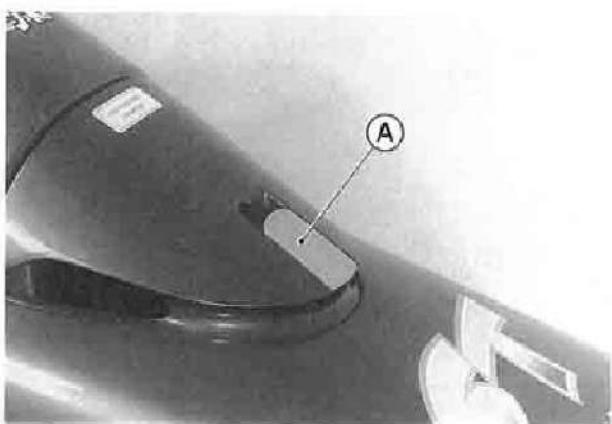
ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方：

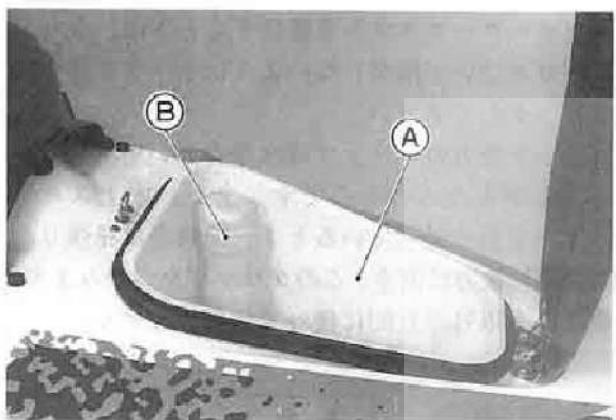
シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シート後部を押し下げ、ロックします。

備品入れ

- 備品入れは船首にあります。内部のケースは簡単に取り出せます。ノブを引き上げ、ふたがロックするまでいっぱい開きます。閉めるとときはふたの根元のラッチを上へ上げて外し、ふたを下ろします。ノブのまわりを押して、ロックします。

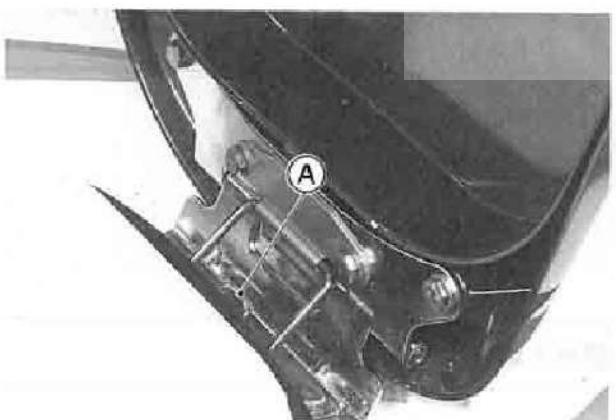


A. ノブ



A. 備品入れ

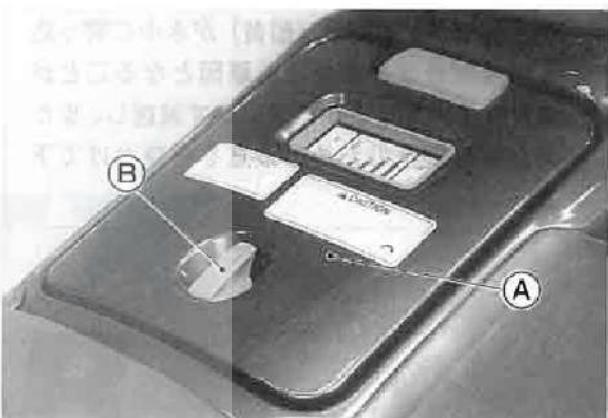
B. 消火器入れ



A. ラッチ

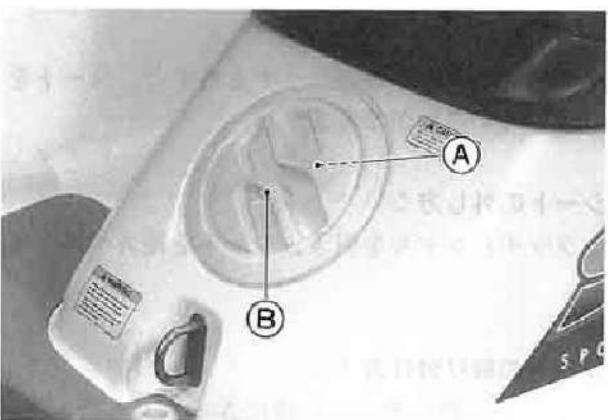
小物入れ

●シートのすぐ前とシート後方のグリップの下側にふたつきの小物入れがあります。工具はシート前の小物入れに、この取扱説明書は防水の袋に入れ、スター（船尾）の小物入れに保管して下さい。また、前後の小物入れにはごく軽量の物だけを入れて下さい。前部のふたは、ノブを左右どちらかへいっぱいまわすと開きます。閉めたあとは、ノブを前方に向けるとロックします。船尾のふたは左へまわすと開き、右へいっぱいまわすと閉まります。



A. 小物入れ（前部）

B. ノブ



A. 小物入れ（船尾）

B. ふた

工具

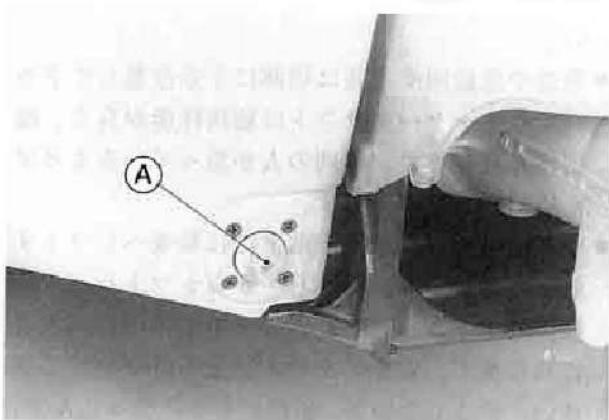
- 工具はシート前的小物入れに収納されています。「小物入れ」の項を参照して下さい。

ドレンプラグ

- スター（船尾）には、エンジンルームにたまつた水を排出するためのドレンプラグがあります。ウォータークラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外して下さい。

注意

- ウォータークラフトを水上におろす前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めて下さい。



A. ドレンプラグ

操縦方法

安全な操縦

操縦者と同乗者の水泳能力：

▲注意

- 道具（たとえ浮袋のような簡単なものでも）を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出てはいけません。

安全運転規則：

▲注意

- ウォータークラフトを操縦するには、四級小型船舶操縦士以上の海技免許が必要です。
- ウォータークラフトを操縦する際は、必ず安全規則、各地方の条例等をよく確認し、これらに従って下さい。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

- 一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意して下さい。
- 気象情報のみにたよらず、観天望氣により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港して下さい。

観天望氣：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- ウォータークラフトは日没後、操縦しないで下さい。夜間も操縦できるように設計されていますし、灯火もありません。

注意

- 波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

- このウォータークラフトの定員は3名です。定員以上乗ってはいけません。また、水上スキーを引っ張っているときは、操縦者以外に同乗者は1名しか乗ってはいけません。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリング及びシフトレバーが正常に動くか点検して下さい。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者と同乗者は、常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 操縦者は航走中必ずキルスイッチコードを手首にはめておいて下さい。もしそうせずに落水したとき、エンジンは停止しません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいて下さい。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。また、水上スキーを引っ張っているときは、同乗者はスキーを見張るため後方を向き、グリップをしっかりとつかんでいて下さい。
- 発進や急旋回する時は周囲に十分注意して下さい。ウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。
- ウォータークラフトが前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作して下さい。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけて下さい。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをする恐れがあります。
- 旋回するためにはジェットポンプからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に離すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられない恐れがあります。
- 他のウォータークラフトや水上スキーをけん引しているときは、注意が必要です。けん引はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引

き起こす恐れがあります。このウォータークラフトは、どんな条件のもとでも、どんなタイプの水上スキーヤーでも充分引っ張れるだけの力があるとはいえないません。けん引能力はそのときの風と波の状態と同様、スキーヤーの熟練度、体重、そして装備によって変わります。また、他の船を操縦している人達も、このウォータークラフトが何かをえい航したり、けん引しているとは思っていないかも知れません。えい航やけん引のロープは、船尾のフックにつないでください。船首と船尾の孔は、ウォータークラフトの運搬時に縛り付けるためのものです。

- このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っているなければなりません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意して下さい。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないで下さい。ウォータークラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げる恐れのある薬物を服用して、ウォータークラフトを運転してはいけません。
- 波を横切るまえに、速度をおとしてください。荒波の中を高速で航走すると、腰をいためることがあります。

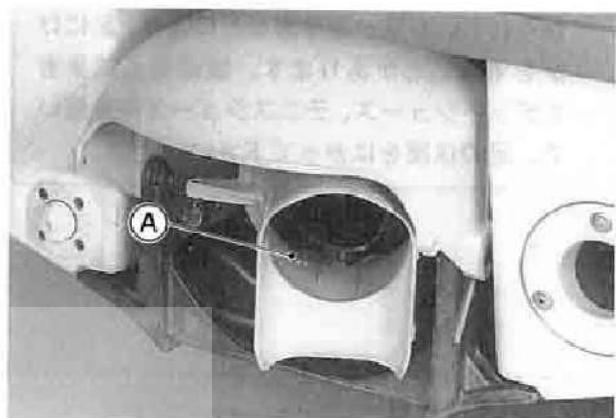
ジェットポンプに関する注意：

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。



▲注意

- エンジンが回転中は、ジェットポンプの吸水口（船底の中央後部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物をさし込まないで下さい。けがをする恐れがあります。

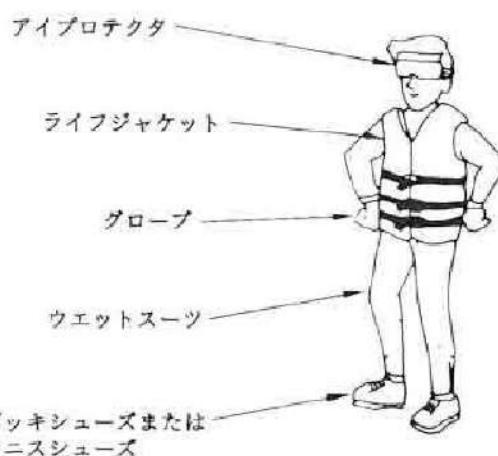


A. ステアリングノズル

操縦者と同乗者の安全装備：

▲注意

- 操縦者と同乗者は、必ずライフジャケットを着けて下さい。
- 落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者と同乗者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用して下さい。



目と足との安全と保護：

▲注意

- ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なアイプロテクタ等をかけて安全をはかって下さい。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかって下さい。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータークラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検して下さい。

ウォータークラフトの外側：

1) ポンプの清掃：

吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いて下さい。

2) ポンプカバー：

ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めて下さい。

3) 船体の損傷：

船体の損傷を点検して下さい。

4) ドレンプラグ：

スター（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

5) ステアリング：

ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検して下さい。必要であればケーブルを調整して下さい。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換して下さい。

6) シフトレバー：

シフトレバーを“F（前進）”、“R（後進）”のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スター（船尾）のリバースパケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

ウォータークラフトの内側：

7) スロットルコントロール：

スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

▲注意

- もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になる恐れがあります。

8) エンジンルームの換気：

備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間エンジンルームの換気をします。

▲注意

- 気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

9) 燃料タンク内の圧力：

燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと締めて下さい。

10) 燃 料：

燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料ノブを“ON”にします。

11) バッテリ：

バッテリの液量が、上限と下限のマークの間にあるか点検します。

12) エンジンオイル：

オイルタンク内のオイルを点検します。必要ならば補充します。

13) 燃料漏れ：

エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検して下さい。

14) オイル漏れ：

同時にオイル漏れがないか点検します。

15) セジメントボール：

セジメントボールに水がたまっているか点検します。もし水がたまっていたら、ボールを外して水をすてます。

16) ファスナ：

ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めて下さい。

17) ホースの接続：

すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認して下さい。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換して下さい。

18) ピルジ（あか）の排水：

エンジンルームに水がたまっているれば、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。

19) キルスイッチコード：

エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

▲注意

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

20) ストップボタン：

再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。

21) シート：

シートのラッチが完全にロックされているか確認します。

22) 操縦者と同乗者の保護：

操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をして下さい。

ならし運転

●新しいウォータークラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また表面を滑らかにするためです。ならし運転期間中は、特別潤滑用に50:1のガソリンとカワサキジェットスキーカー純正オイルの混合油を燃料タンクに入れることを推奨します。最初の5時間（燃料タンクで約3杯分）のエンジン運転中は、この混合油を使用して下さい。ならし運転期間が過ぎると、分離給油システムがエンジンを程よく潤滑するので、混合油を使う必要はありません。また、最初の5時間は急激な加速や長時間の全速運転をしないで下さい。この間は全速の3/4以下で運転して下さい。スロットルリミッタを作動範囲の半分のところまで戻して下さい。

一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転して下さい。

●ならし運転期間中、ウォータークラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。

- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けて下さい。「整備と調整」の章の「定期整備表」をご参照下さい。

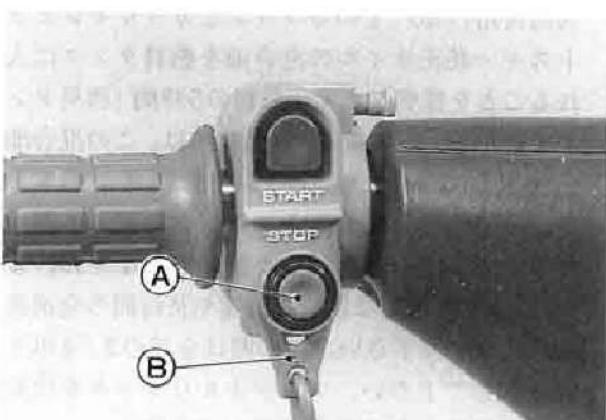
エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによつて、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。

▲注意

- エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いて下さい。

考えられる緊急事態とは：

- *エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- *スロットルレバーが指をはなしても完全に戻らないとき。

▲注意

- もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないで下さい。

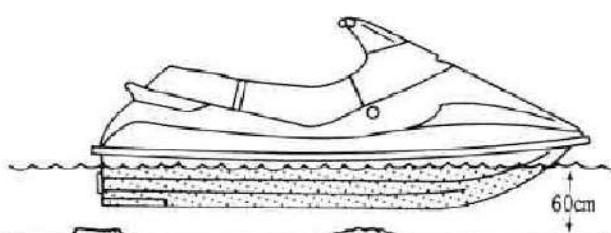
エンジンの始動

- ウォータークラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従って下さい。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外して数分間換気して下さい。

▲注意

- 気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深60cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ポートや障害物がないかよく確認します。



注意

○ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60cm以上の所で行って下さい。

- 燃料ノブを“ON”にし、スタータロックスイッチを引き出します。
- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめます。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認して下さい。

（要点）

- エンジンが始動しない時は、15秒間隔で始動を行って下さい。こうすることはバッテリーやスタータの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくても choke knob を左へいっぱい戻して下さい。燃料の過給を防ぎます。
- エンジンが温まっているときは、 choke を使わないで下さい。

（要点）

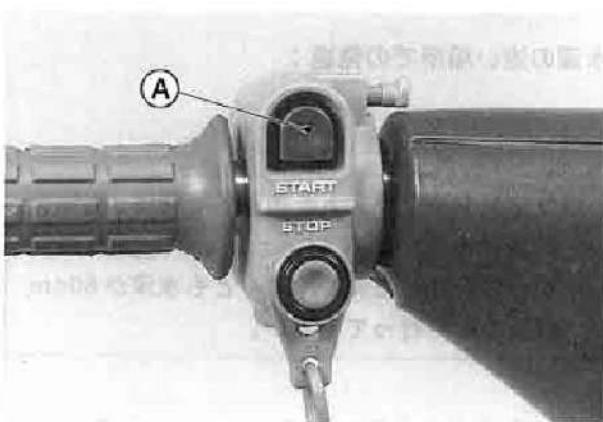
○キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンはまわっても始動しません。

- choke knob を右へいっぱいまわし (“ON”位置)、スロットルレバーを少し押します。
- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放して下さい。もし、エンジンが5秒以内に始動しない時は、スタータボタンを放して下さい。15秒間待って再び始動させて下さい。数回試みても始動しない時は、「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

注意

○エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないで下さい。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転します。ときどきスロットルレバーを少し押して回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを押したとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認して下さい。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. スタータボタン



A. バイパス出口

発進

桟橋からの発進：

- ・桟橋からウォータークラフトの上に飛び降りてはいけません。
- ・まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- ・シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- ・桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータークラフトは船首でまわるのでなく船尾でまわるので、桟橋に当たらないように十分注意して下さい。
- ・前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

▲注意

○進行方向にいるボートや障害物に注意して下さい。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- ・スロットルレバーを押して旋回ができる推力を出します。

注意

○桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けて下さい。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認して下さい。

- ・広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- ・スピードが上がるにつれてウォータークラフトは水平になって滑走します。
- ・いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走って下さい。

- ・進行方向のボートや泳いでいる人達、また障害物に絶えず注意して下さい。

ランプからの発進：

- ・ウォータークラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を点検したか確認して下さい。
- ・同時に、ランプの表面の状態、傾斜及び幅が、トレーラーやけん引車に適しているか点検して下さい。

注意

○ウォータークラフトが浸水しないように、スターン（船尾）のドレンプラグがしっかりと締められているか点検して下さい。

水深の深い場所での発進：

一人乗りの場合

- ・ウォータークラフトの後部へまわります。
- ・シート後端のグリップをつかみ、体を引き上げながら片ひざずつデッキにのせます。
- ・シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- ・シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- ・操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータークラフトに上がります。

水深の浅い場所での発進：

注意

○ウォータークラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60cm以上の所で行って下さい。

- ・船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータークラフトが安定するようにバランスをとって下さい。

停止

通常停止：

▲注意

- フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から60m以内に直進して近づかないで下さい。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落として下さい。
- ウォータークラフトにブレーキをかけるつもりで後進へシフトしてはいけません。バウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

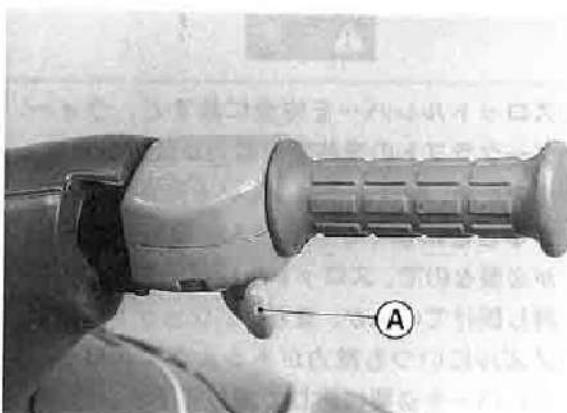
このウォータークラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

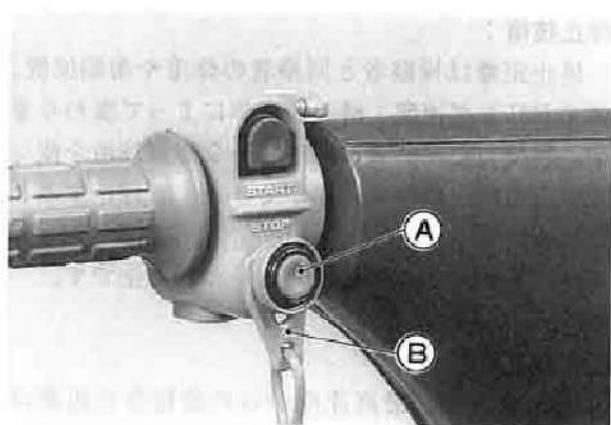
注意

- 異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が60cm以下になる前にエンジンを止めて下さい。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



A. ストップボタン B. キルスイッチコードキー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを押してウォータークラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータークラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

▲注意

- スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになります。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し押し続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて押して下さい。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押して下さい。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷をうけることを防ぎます。水深60cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

▲注意

- 再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術：

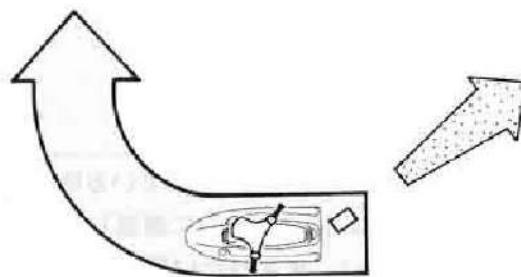
停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止するときに急旋回（スロットルを使って）することは、停止距離を短くするのに使える一つの方法です。

最短停止距離：

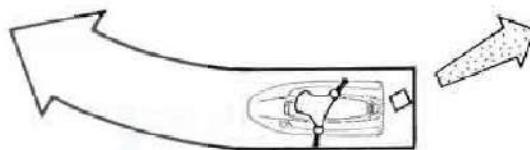
三人乗りで、最高速度からの最短停止距離は68mです。

この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってしまいます。

ジェットポンプの推力が強いとウォータークラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



旋回

ウォータークラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- スロットルを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。



左

右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



右

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを押すとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータークラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

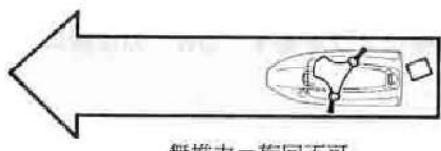


アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

▲注意

- スロットルレバーを完全に放すと、ウォータークラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し押し続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて押して下さい。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータークラフトは真っすぐに進みます。



無推力=旋回不可

▲注意

- 再びスロットルを使ってウォータークラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないで下さい。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し押し続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて押して下さい。

- 旋回に入る前に、スロットルをゆるめてスピードを落として下さい。

▲注意

- このウォータークラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になる恐れがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意して下さい。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人との体につかまるか、シートバンドをつかんでいて下さい。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないで下さい。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速して下さい。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待つてからシフトレバーを“R（後進）”に入れます。

▲注意

- 高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータークラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで、乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また同乗者に安全のための注意を呼びかけて下さい。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。
- 徐々にスロットルレバーを押して、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータークラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使って下さい。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押して下さい。砂がジェットポンプに入りて損傷させることを防ぎます。水深60cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

- ウォータークラフトを岸に乗り上げないで下さい。インペラや船体がひどく損傷することがあります。
- 浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないで下さい。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないで下さい。従って、ウォータークラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めて下さい。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータークラフト“ジェットスキー”の乗り方

初めてウォータークラフトに乗った時は、シートにまたがって座ります。ウォータークラフトの扱い方に慣れて下さい。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんで下さい。

▲注意

- ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないで下さい。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まても（そのまえに燃料警告灯が点灯する）、チョークノブを回してはいけません。燃料ノブを“RES”の位置に回し、エンジンをもう一度始動します。常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意して下さい。

〈要点〉

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給して下さい。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にして下さい。

落水：

操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

▲注意

- ウォータークラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないで下さい。ウォータークラフトにぶつかってけがをする恐れがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、しりから先に水面に落ちることです。
- ウォータークラフトの後部から上がりります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータークラフトの起こし方：

万一ウォータークラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

直ちに次の手順で船体を起こして下さい。

▲注意

- このウォータークラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っているなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

- エンジンが停止したか確認します。もし停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

- もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入る恐れがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

（要点）

○ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者がスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らさねばなりません。こうするとビルジ装置が働いて、エンジンルームにたまつた水を排出することができます。

○もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照して下さい。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で手前の船側を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上るようにします。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならば反対側の船側をつかんで船を完全に引き起こします。
- 後部から船に上がります。コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。

.....
航走終了後の手入れ
.....

第1：排気系統の水抜き

- ウォータークラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなる迄、くり返しエンジンをふかして下さい。

注意

- 水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。
- 水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄して下さい。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

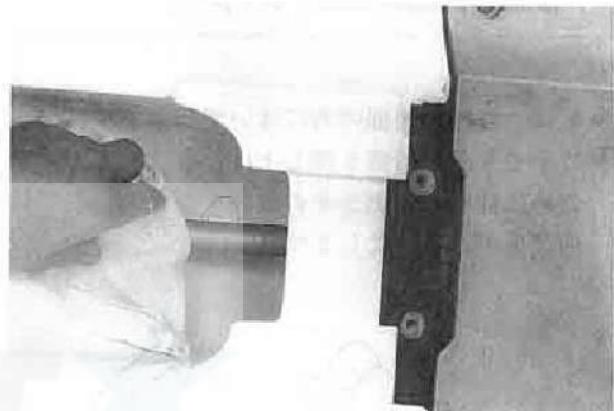
第2：エンジンルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出して下さい。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- エンジンルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータークラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができ、また結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、すきまをあけておきます。

注 意

- ウォータークラフトは必ず右側に傾けて下さい。左側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



特殊な手入れ

インペラの清掃：

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータークラフトを水から引き揚げます。

注 意

- ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認して下さい。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

▲注意

- エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないで下さい。けがをする恐れがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、スタータロックスイッチを押し込んでおいて下さい。

- スタータロックスイッチを押し込みます。
- タオルかパッドをウォータークラフトの横におきます。
- ウォータークラフトを右側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子及びカバーを取り外して下さい。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

汚れたスパークプラグの清掃：

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したまま航走した場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けて下さい。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃して下さい。

- また、水のついたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。
- スロットルはほとんど使わないでエンジンを始動して下さい。

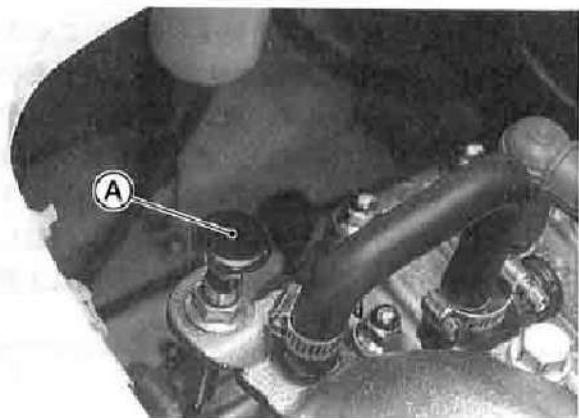
浸水後の処置：

注意

○もしエンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をして下さい。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータークラフトが浸水したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクやオイルタンクにも水が入ことがあります。

1. ウォータークラフトを水から引き揚げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを取り外し、エンジンルームの排水をします。
3. スパークプラグを取り外します。
4. コードキーをストップボタンから抜き、エンジンドレンバルブノブを引き上げながらスタートボタンを押します。エンジン内の水がクランクケースから出てきます。スタートボタンは5秒以上押さないで下さい。もう一度スタートボタンを使用する時は、15秒以上間をあけて下さい。



A. ドレンバルブノブ

5. ドレンバルブノブを戻します。
6. ドレンバルブノブを引き上げ、もう一度エンジンを回してエンジン内の水が完全に出たか確認します。ドレンバルブノブを戻します。
7. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグを取り付けます。
8. チョークノブを右へまわし（“ON”位置）、コードキーをストップボタンの下に差し込み、エンジンを始動します。

注意

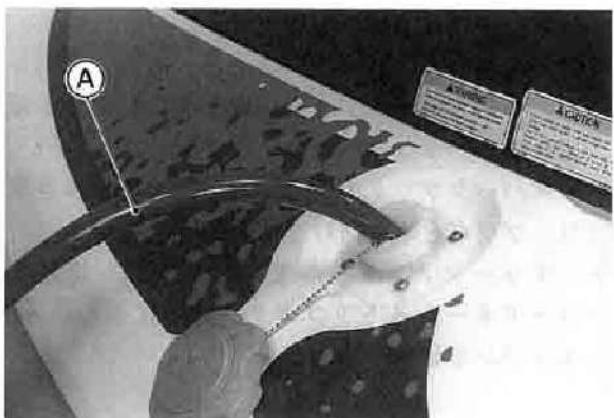
○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

9. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動して下さい。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
10. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタクリーンを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所に捨てて下さい。

▲注意

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。スタートロックスイッチを押し込み、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

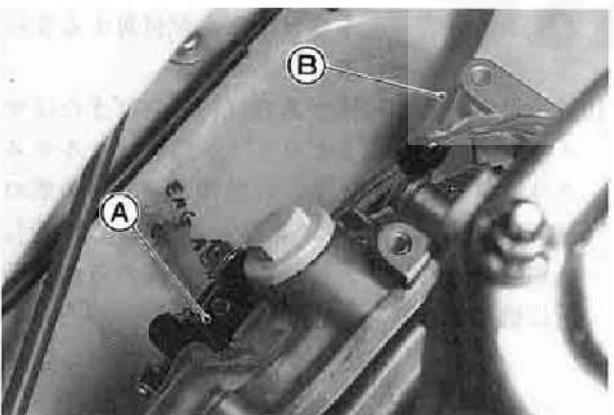


A. サイフォンホース

〈要点〉

○エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を数回繰り返す必要があるかも知れません。繰り返しトラブルが起きるときは、水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。販売店に相談してみて下さい。

11. オイルタンク内に水があれば、オイルを全部抜きとります。オイルポンプからインテークホースを外し、オイルを抜きます。



A. オイルポンプ B. インテークホース

12. ホースを元通りオイルポンプに接続し、新しいカワサキジェットスキー純正オイルを入れます。汚れたオイルは決められた場所に捨てて下さい。
13. オイルホース内の空気を抜きます。(「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。)
14. シートを取り付け、ラッチをロックします。

15. ドレンプラグをスター（船尾）に取り付けます。

16. 最後にウォータークラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物（塩など）を排気口から排出します。

ウォータークラフトのえい航：

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合にはウォータークラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりとを行い、8km/h以上のスピードを出さないで下さい。

注意

○この指示は重要ですから必ず守って下さい。そうしないとエンジルームに浸水し、ウォータークラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動：

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータークラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合ウォータークラフトのバッテリと同じ電圧(12V)のものを使用して下さい。

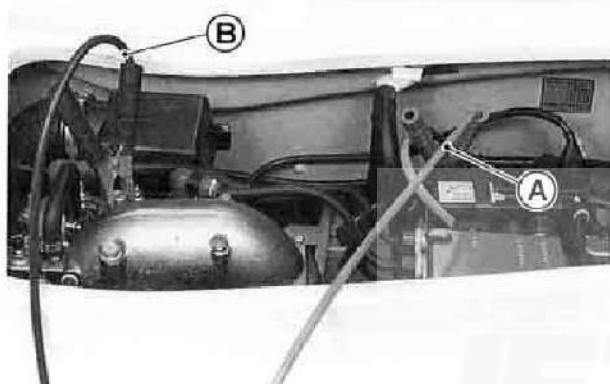
▲注意

○バッテリ液は条件によっては引火性及び爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリ内に常時あり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけて下さい。またバッテリを取り扱っている時は、保護メガネを着用して下さい。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けて下さい。

- 両方のバッテリの (+) ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの (-) ターミナルに接続します。

注意

- バッテリを反対の極 [(+) から (-)] へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



A. (+) コード

B. (-) コード

- もう一方の端をエグゾーストパイプのボルトに接続します。

▲注意

- 最後の手順の接続を間違ってキャブレタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時はバッテリの上に体を乗り出さないで下さい。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発する恐れがあります。

注意

- 5秒間以上連続してスタータを回さないで下さい。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回して下さい。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外して下さい。

エンジンのオーバーヒート：

このウォータークラフトには、エンジンがオーバーヒートしたときに水温警告灯を点灯させ、エンジンの回転を落とす温度センサーがついています。

- 警告灯が点灯してウォータークラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっているか点検して下さい。

注意

- エンジンがオーバーヒートすると、警告灯が点灯してエンジンの回転が下がります。直ちに岸に戻り、冷却系統を点検して下さい。エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを操縦しないで下さい。

運搬

ウォータークラフトをトレーラー等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守って下さい。

- ウォータークラフトの重量と形状にマッチしたトレーラーを使用して下さい。不適格なトレーラーで運搬することは安全面で問題があります。

注意

○ウォータークラフトをトレーラーやスタンドに乗せるときは、スターント(船尾)から40cmの範囲に当らないようにして下さい。この部分は少し下に傾斜しているため、均等に支えることができず、船体が損傷する恐れがあります。

- 燃料ノブを“OFF”の位置にします。
- トレーラーの上で動かないようにしっかりと固定して下さい。

注意

○シート後方のグリップにロープ等をかけないで下さい。

保 管

冬の間や、長時間ウォータークラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなつた部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータークラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。

保管する前の作業

注意

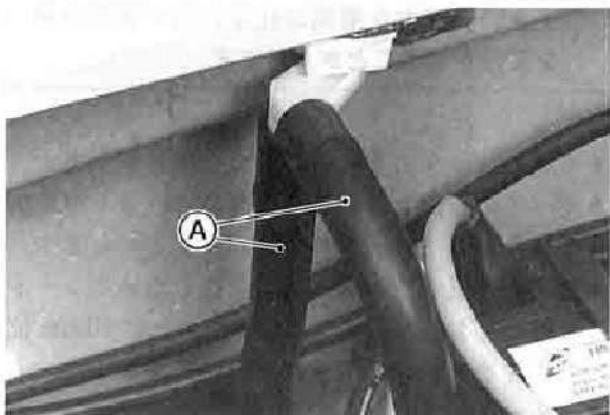
○ウォータークラフトをトレーラーやスタンドに乗せるときは、スター（船尾）から40cmの範囲に当らないようにして下さい。この部分は少し下に傾斜しているため、均等に支えることができず、船体が損傷する恐れがあります。

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧搾空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出して下さい。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統

▲注意

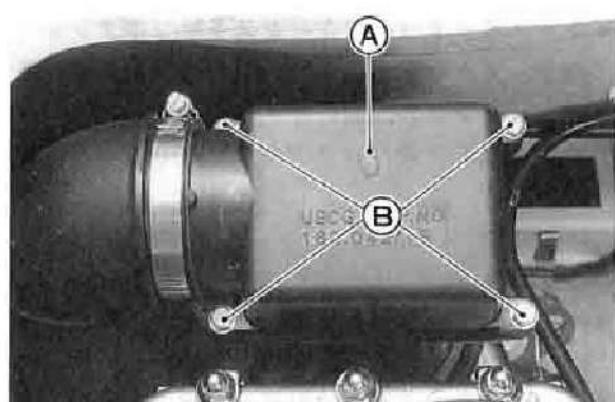
○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発する恐れがあります。スタータロッカスイッチを押し込み、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめて下さい。

- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いて下さい。
- 燃料フィルタスクリーンを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。）
- 燃料タンク内の結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいて下さい。
- エンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



A. 空気吸入口カバー

B. ボルト

- フレームアレスタエレメントを取り外し、必要な場合は圧搾空気で清掃します。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- フレームアレスタエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

注意

○バッテリ内に重ソウの溶解液が入らないようにして下さい。

- バッテリ液の量を調べ、必要ならば蒸留水を上限のマークまで満たして下さい。
- 比重計でバッテリ液の比重を点検し、必要ならば充電して下さい。
- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管し、温度が氷点下になる場所にはおかないで下さい。

（要 点）

○バッテリは少なくとも30日おきに点検し、必要ならば補充電して下さい。長く放置すると徐々に放電し、サルフェーション（極板が白くなる）が始まります。いったんこの反応が始まると、バッテリは大抵の場合正常な機能に戻すことはできません。

エンジン

- スパークプラグを取り外し、各シリンダ内にエンジンオイル約30ccを注入します。

注意

○オイルを入れ過ぎないようにして下さい。
入れ過ぎると次回エンジンを始動する時、クランクシールが損傷することがあります。

- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、スタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわらせます。そして、スパークプラグを取り付けます。

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

洗 淨

- エンジンルームを水洗いし、ドレンプラグを外して排水します。残った水はきれいに拭きとります。
- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

○ウォータークラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用して下さい。強力な溶剤は化学作用で表面塗装を変色させることができます。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10mm位の木片等をおいてすき間をあけておきます。
- ウォータークラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

潤滑

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。(「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。)

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータークラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で行ってもらうか、または次の事項を実施して下さい。詳細については、「整備と調整」の章を参照して下さい。

- すべての推奨潤滑方法を実施して下さい。(「潤滑」の項参照。)
- スロットル、チョーク、ステアリング及びシフト機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置にもどらなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、キャップを点検します。(「スパークプラグ」の項参照。)
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータークラフトを右へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換して下さい。カバーを取り付け、しっかりと固定します。
- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- バッテリを点検し、必要ならば補充電して、ターミナルを清掃します。バッテリを取り付けて下さい。(「バッテリ」の項参照。)
- 燃料フィルタスクリーンを点検または交換します。(「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。)
- 燃料ベントチェックバルブを検査します。(「燃料、エンジンオイル系統」の項参照。)
- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

▲注意

○ガソリンは非常に引火性が強く、条件によつては爆発する恐れがあります。スタータロックスイッチを押し込み、禁煙にして下さい。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめて下さい。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、ケースを取り出し、シートを外してエンジンルームを数分間換気して下さい。

▲注意

○気化したガソリンがエンジンルームにたまる、と、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理して下さい。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

▲注意

○密閉された場所でエンジンを運転しないで下さい。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイル及び排気ガス漏れを点検して下さい。漏れがあれば必ず修理して下さい。

注意

○水から引き揚げたウォータークラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないで下さい。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

○水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないで下さい。エンジンの重大故障の原因になります。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

整備と調整

定期整備表

〈要 点〉

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施して下さい。

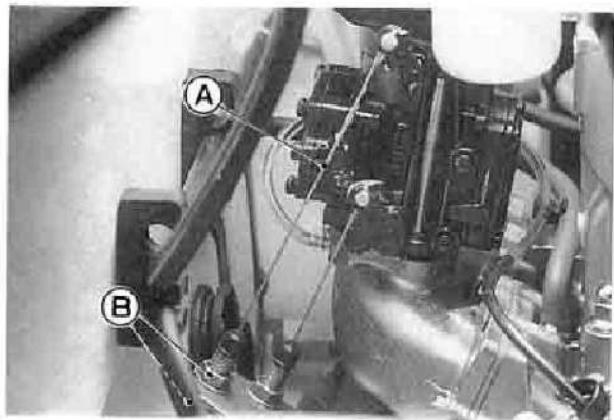
| 実施項目 | 頻 度 | 最 初 の 10時間後 | 25 時 間 毎 | 100時間 毎 |
|--|-----|----------------|-------------|------------|
| すべてのホースクランプ、ナット、ボルト及びファスナを点検する。 | ● | ● | | |
| ※シリンドラヘッドナットを締める。 | ● | ● | | |
| キャブレタ部のスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部を潤滑する。 | | ● | | |
| スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。 | | ● | | |
| バッテリ液の量とターミナル部を点検する。 | | ● | | |
| チョークケーブルと（※）スロットルケース及びケーブルを潤滑する。 | | ● | | |
| ステアリングケーブルとシフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズルとリバースパケットのビボットを潤滑する。 | | ● | | |
| ※ハンドルバー・ビボットを潤滑する。 | | ● | | |
| ※燃料フィルタスクリーンを検査、清掃する。 | | ● | | |
| 燃料ペントチェックバルブを検査する。 | | ● | | |
| キャブレタを調整する。 | | ● | | |
| ビルジ系統及びフィルタを洗浄する。 | | ● | | |
| 冷却系統を洗浄する（海上で操縦した時は使用後毎回）。 | | ● | | |
| フレームアレスタを検査、清掃する。 | | ● | | |
| ※インペラのブレードの損傷を検査する。 | | | ● | |
| ※カップリングダンバを検査、交換する。 | | | ● | |
| ※キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを検査する。（もし必要ならばキャブレタを交換する。） | | | | ● |
| ※ステアリングケーブルとシフトケーブルを点検する。 | | | | ● |

※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取扱いに熟練していないければ、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店で実施してもらって下さい（サービススマニュアル参照）。

コントロールケーブルの調整

注意

- ウォータークラフトをトレーラーやスタンドに乗せるときは、スター（船尾）から40cmの範囲に当らないようにして下さい。この部分は少し下に傾斜しているため、均等に支えることができず、船体が損傷する恐れがあります。

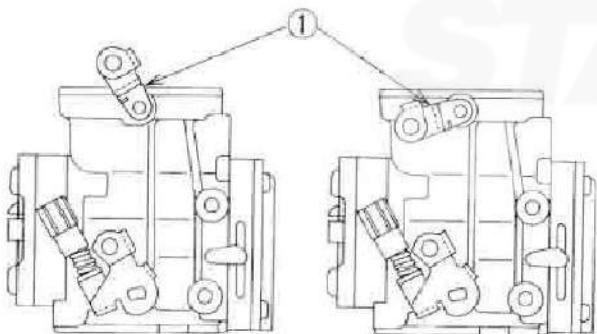


A. チョークケーブル B. ロックナット

チョークケーブルの調整

- チョークノブが“OFF”の位置にあるとき、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが一番上方にあり、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。

チョーク開
(ノブが“OFF”位置)



1. チョークピボットアーム

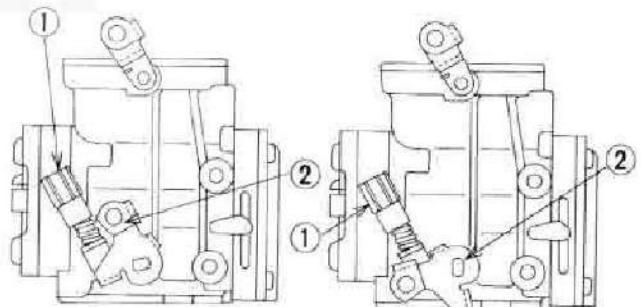
チョーク閉
(ノブが“ON”位置)

スロットルケーブルの調整

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルビポットアームの下側のストッパーがアイドルアジャストスクリューに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。
- スロットルレバーをいっぱい押したとき、ピボットアームの上側のストッパーがキャブレタのストップに最大限に近接しています。

スロットル開
(レバーを放した状態)

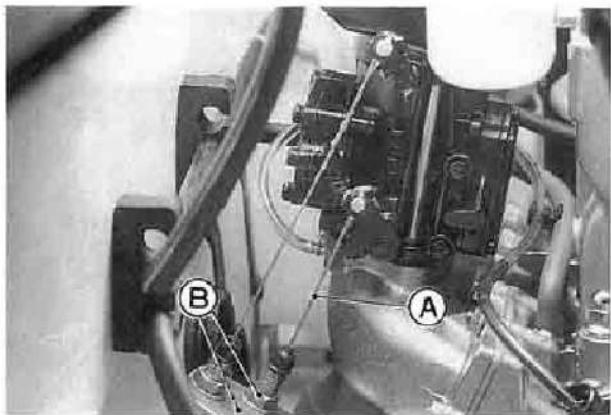
スロットル閉
(レバーをいっぱい押した状態)



1. アイドルアジャストスクリュー
2. スロットルビポットアーム

- 必要ならばチョークケーブルを調整して下さい。
- チョークノブを“OFF”位置にします。
- ケーブルプラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
- ロックナットをしっかりと締めます。

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルプラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパーがアイドルアジャストスクリューに当たるようになります。次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- ロックナットをしっかりと締めて下さい。



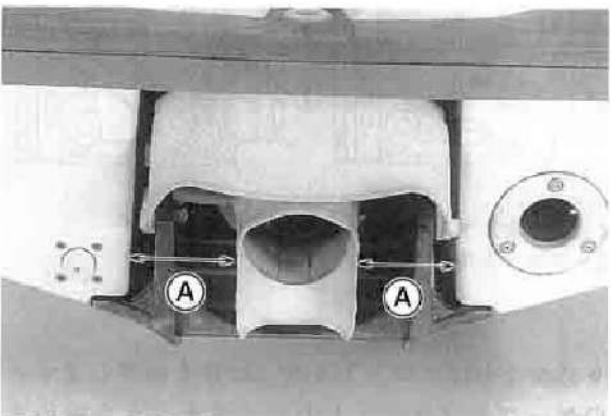
A. スロットルケーブル B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。

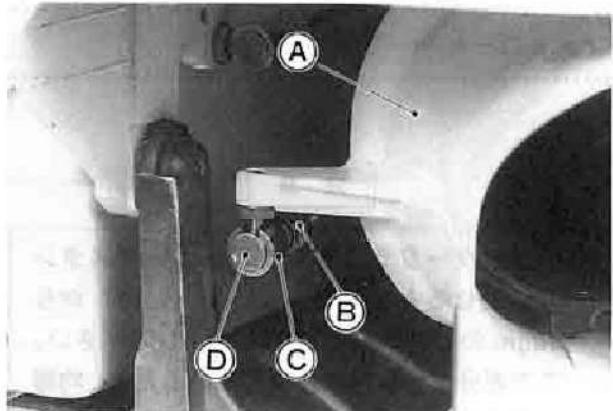


- ステアリングノズルがノズル室の両側から同じ距離にあるか点検します。



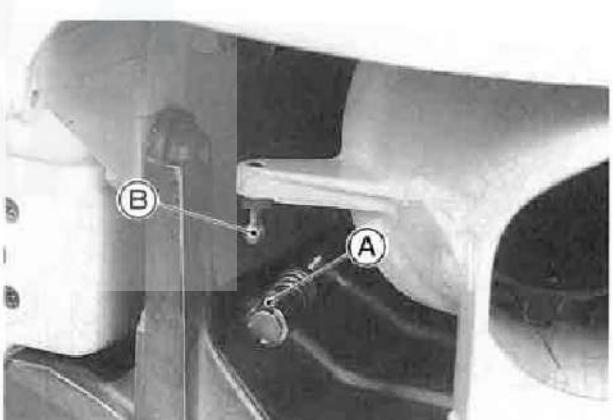
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル左側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



A. ステアリングノズル C. スリーブ
B. ロックナット D. ポールジョイント

- アウタースリーブを少しずらして、ポールからポールジョイントを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのポールジョイントをまわして、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置しているときに穴がポールの位置に合うようにします。

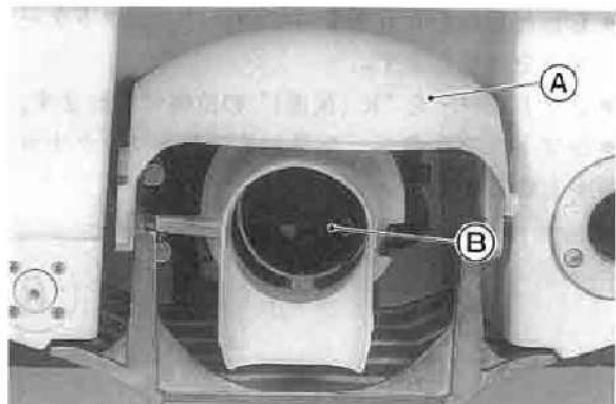


A. ポールジョイントの穴 B. ポール

- ポールにポールジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切れます。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離



A. リバースパケット

B. ステアリングノズル

ステアリングケーブルの点検

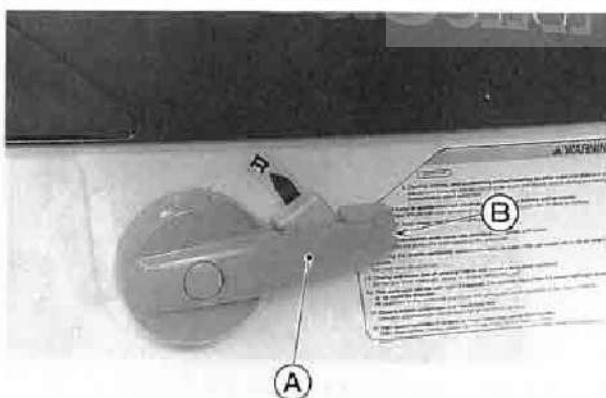
ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられた時は、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”的販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

シフトケーブルの調整

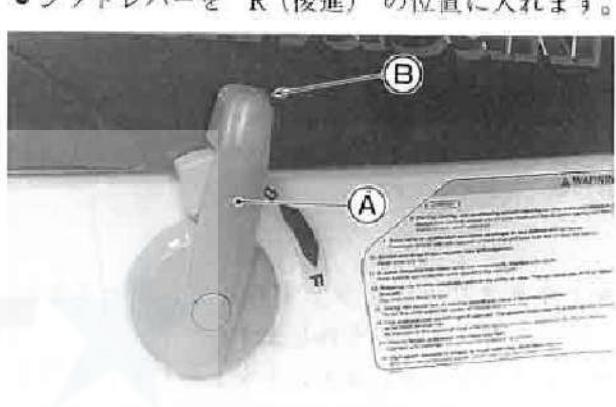
- シフトレバーを“F（前進）”の位置に入れます。



A. シフトレバー

B. “F（前進）”

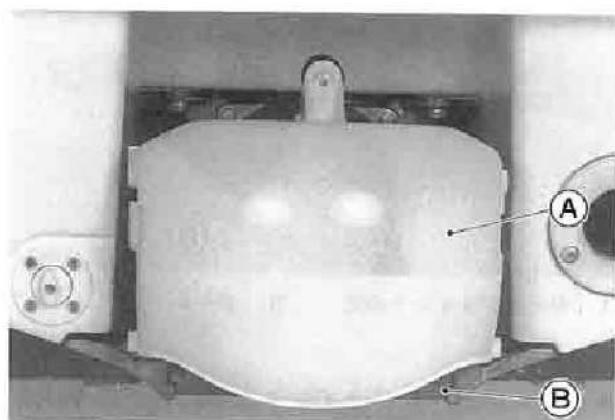
- このとき、スター（船尾）にあるリバースパケットに少し遊びがあり、手で押し下げるとき、パケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



A. シフトレバー

B. “R（後進）”

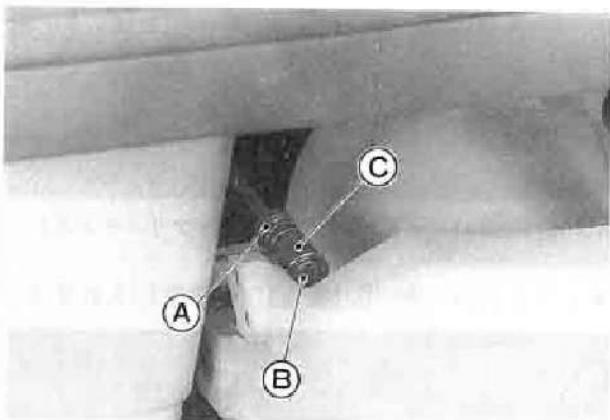
- このとき、リバースパケットの下端はポンプカバーの底面から下へ5mm、上へ10mmまでの範囲にあります。



A. リバースパケット

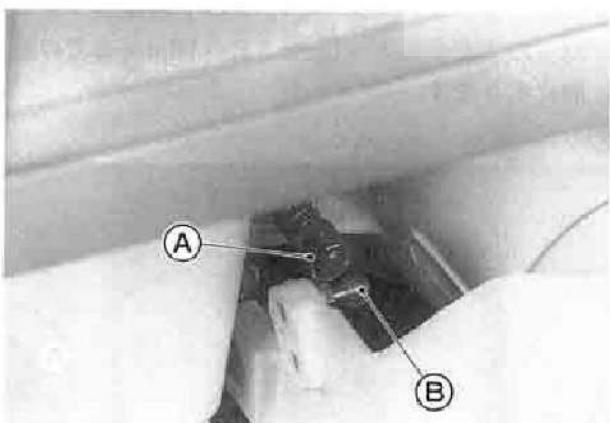
B. ポンプカバー

- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを“R(後進)”の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロックナットをゆるめます。



A. ロックナット
B. ボールジョイント
C. スリーブ

- アウトスリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントをまわして、シフトレバーが“F(前進)”の位置にあるとき、バケットに2~3mmの遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端がノズルの上端より上有るように調整します。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”的販売店で点検を受けて下さい。

〈要 点〉

- シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

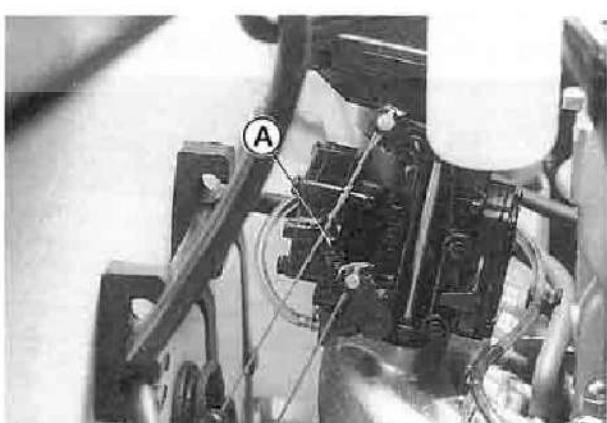
燃料、エンジンオイル系統

キャブレタの調整：

アイドリングスピード

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドリングアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドリングアジャストスクリュー

アイドリングスピード

水上……約1,250 rpm

陸上……約1,700 rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場で測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取り付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないで下さい。

〈要点〉

○調整の必要があるときは、カワサキの販売店で調整してもらって下さい。

燃料ベントチェックバルブ：

燃料タンクにはゴムのベントホースが取り付けられ、セジメントボールに接続しています。ホースについている小型のプラスチックのチェックバルブは、燃料タンク内に空気を入れる一方、ウォーターラフトが転覆したとき燃料のこぼれを最小にする働きをしています。

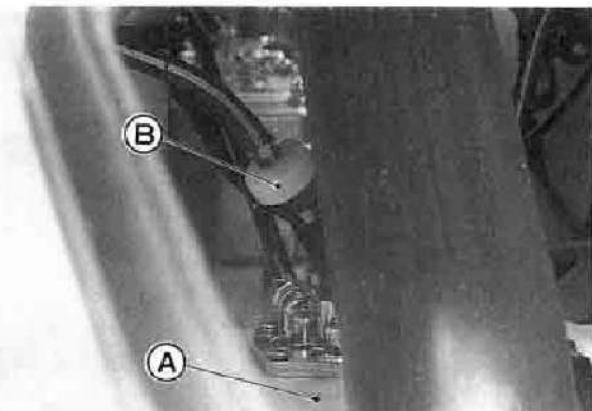
燃料ベントチェックバルブの検査

「定期整備表」の規定に従ってチェックバルブを検査して下さい。

▲注意

○燃料関係のホースを外す前に、燃料注入口キャップを緩めて圧力を抜いて下さい。

- 燃料ベントホースからチェックバルブを取り外します。

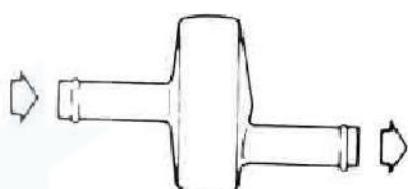


A. 燃料タンク

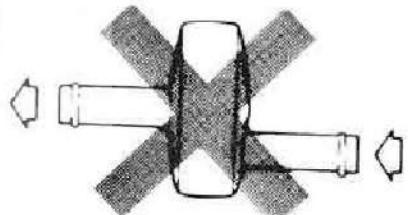
B. チェックバルブ

- チェックバルブの各開口部から空気を吹き込んで下さい。

空気は下図の方向には自由に通ります。



下図の方向には通りません。



- もし、上記のテストの一つでも不合格になったならば、良品と交換して下さい。
- チェックバルブの矢印を燃料タンクの方に向けて取り付けます。

セジメントボール：

燃料タンクに水が入らないように、ベントホースにセジメントボールが取り付けられています。

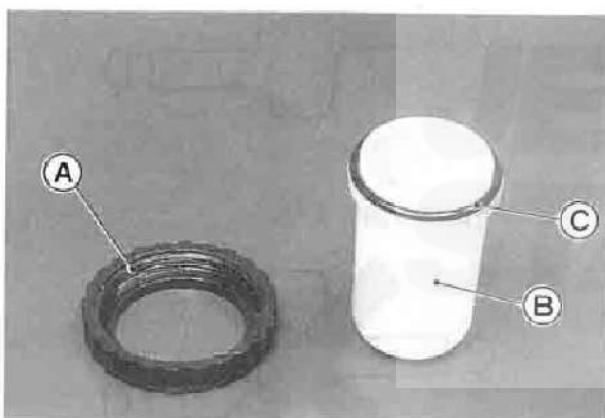
セジメントボールに水がたまつていれば取り外して排水し、清掃します。



A. セグメントボール

セグメントボールの清掃

- ・リングをまわして、セグメントボールを取り外します。
- ・ボールの水を捨て、清掃します。



A. リング C. Oリング
B. セグメントボール

- ・ボールにOリングをつけてボールを取り付け、リングを締め付けます。

燃料フィルタスクリーン：

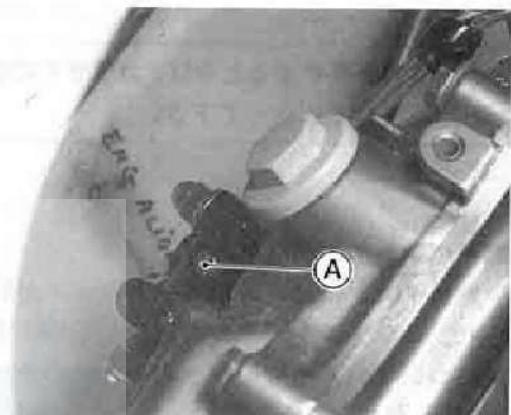
ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐため、燃料アウトレットアッシャに燃料フィルタスクリーンが付いています。

「定期整備表」の規定に従って、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でフィルタスクリーンを検査、清掃してもらって下さい。

オイルポンプの空気抜き：

オイルポンプに接続している2本のホースのどちらかでも外したときは、ホースの内部に空気が入り、オイルの流れを妨げことがあります。

- ・オイルタンクに十分オイルがあり、オイルがスムーズに流れる状態にあることを確認します。
- ・オイルポンプの下に布を敷きます。
- ・オイルポンプについている空気抜きスクリューを2回転緩め、オイルが流れ出たらスクリューをしっかりと締めます。



A. 空気抜きスクリュー

- ・シリンダヘッドの冷却ホース取付部から水を送って、エンジンを十分冷却します。（「冷却系統の洗浄」の項参照。）

注 意

○水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。また、エンジンを止める前に水を止めて下さい。

○冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に損傷をひき起こすもとになります。

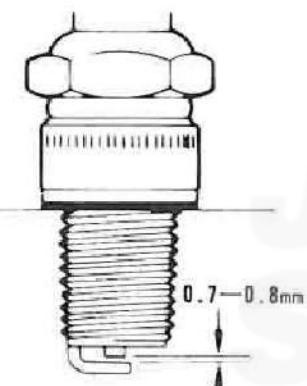
- ・エンジンを始動し、アイドリング状態でオイルが透明なアウトレットホースを通っているか点検します。
- ・アウトレットホースの中の気泡がなくなるまで、エンジンを回しておきます。

スパークプラグ

「定期整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR8ESで、ギャップを0.7~0.8mmに調整して使用して下さい。

ウォータークラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンドヘッド温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切で、オイルポンプが正常に作動していれば、熱値の異なるスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱値のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用して下さい。



スパークプラグの検査及び交換

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

注意

○過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正して下さい。

絶縁碍子に乾いたすののような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検して下さい。黒い堆積物が湿って油氣を帶びている時は、オイルのタイプが不適当か、オイルポンプのオイル吐出量が過度であることが考えられます。「トラブルシューティング」の章を参照して下さい。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7~0.8mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換して下さい。

バッテリ

「定期整備表」の規定に従って、バッテリの液量とターミナル部を点検します。

注意

○バッテリのラベル上の事項に注意して下さい。



A. 上限マーク

B. 下限マーク

バッテリ液量：

バッテリ液面が、バッテリケース側面の上限と下限のマークの間にるようにして下さい。バッテリ液面が低くなったら、バッテリのフィラキャップを外し、蒸留水を各セルとも上限のマークに達する迄注入して下さい。

注意

○バッテリには、蒸留水のみ入れて下さい。水道水は不純物を含んでおり、バッテリの寿命を縮めます。

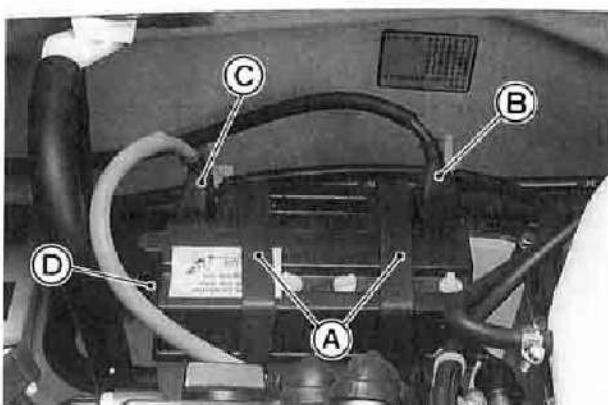
バッテリの充電：

バッテリ液の比重が20℃で1.20以下のときは、バッテリを取り外し、充電する必要があります。

バッテリの取外し

注意

○充電する時はいつでもバッテリを船内から取り外して下さい。取り外さずに充電すると、バッテリ液がこぼれ、ウォータークラフトの部品が腐食することがあります。



A. ゴムバンド
B. 黒リード線（アース）

C. 赤リード線
D. ベントホース

- 最初にバッテリから黒色のリード線（アース）を外します。
- 次に赤色のリード線を外します。
- ベントホースをバッテリから外します。
- バッテリを固定している二本のゴムバンドを外します。
- バッテリを持ち上げて船内から出します。
- ターミナルを清掃します。

バッテリの充電

▲注意

○充電中はバッテリに火気を近づけないで下さい。バッテリは水素と酸素の混合ガスを発生しているので、爆発の恐れがあるからです。バッテリチャージャを使用する時は、バッテリをチャージャに接続した後で、チャージャのスイッチを入れて下さい。これはバッテリターミナル部でスパークし、バッテリの発生ガスが発火するのを防ぐためです。

- 各セルからキャップを外し、バッテリをチャージャに接続します。充電は1.9アンペアで10時間行います。

注意

○充電中にバッテリ液の温度が45℃以上に上昇したら、温度を下げるため充電電流を下げて下さい。従って、充電時間はその分だけ長くなります。

- 充電後、各セルのバッテリ液面を点検します。液面が下がっていれば、上限のマークまで蒸留水を補給します。
- 各セルの比重とバッテリ電圧を測って充電結果を点検します。バッテリ液の比重は、初めてバッテリを使用するために入れられたバッテリ液の比重と同じでなくてはなりません。通常は室温で1.28です。バッテリ電圧は14.5~15.5Vです。

バッテリターミナル部：

バッテリターミナル部の点検と清掃

- ターミナル部に汚れや腐食があるときは、ぬるま湯を注いで拭いて下さい。
- 腐食が著しい場合は、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、ターミナル部に耐水グリースを薄く塗っておきます。

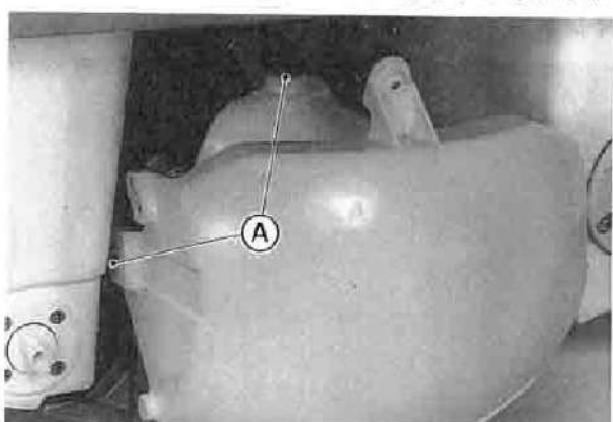
バッテリの取付け

- バッテリを取り外した時と逆の順序で取り付けます。
- バッテリを接続した後、ターミナルに耐水グリースを塗ります。

注意

○バッテリの(+)と(-)を逆に接続しないで下さい。レギュレータや整流器が損傷します。

ステアリングノズルトリバースバケットのピボット



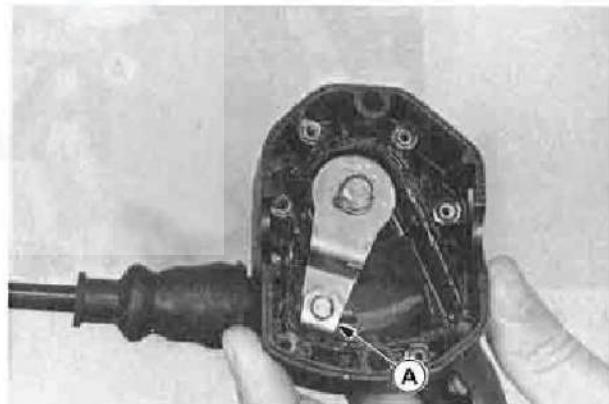
A. ピボット

- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

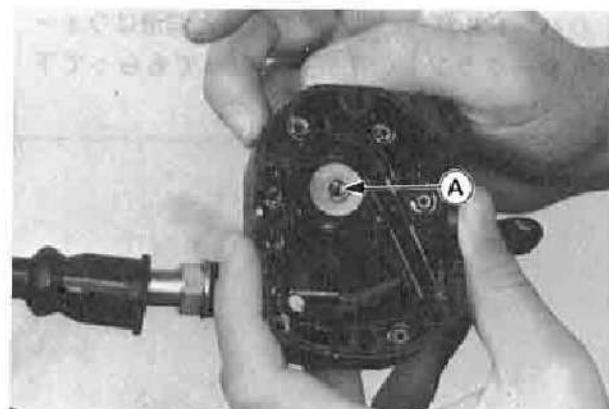
注意

○スロットルケースの分解と潤滑はウォータークラフトの販売店で行ってもらって下さい。

スロットルケース及びケーブル



A. グリースを塗布



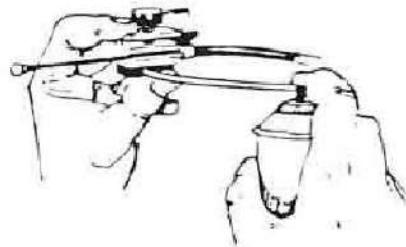
A. グリースを塗布

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータークラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期整備表」及び「乗る前の点検項目」を参照して下さい。

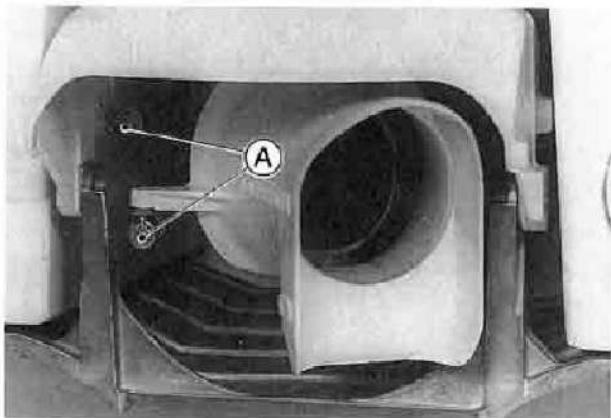
- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

チョークケーブル及びスロットルケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

ステアリングリンクとシフトリンクのボールジョイント



A. ボールジョイント

キャブレタのスロットルケーブル取付部及びチョークケーブル取付部



A. グリースを塗布

注 意

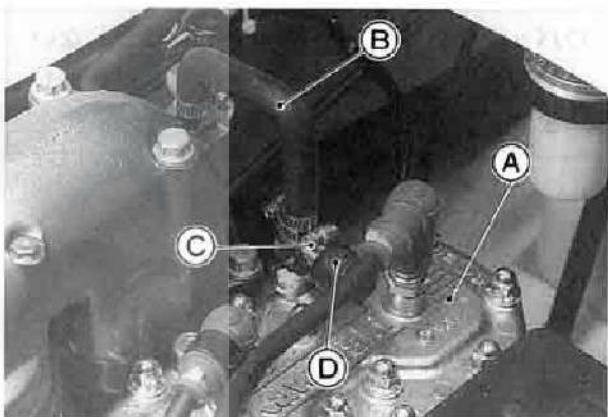
○ハンドルバー・ピボットの分解と潤滑はウォータークラフトの販売店で行ってもらって下さい。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減ったときはすぐにに行って下さい。

この方法はまた、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばオイルポンプの空気抜き）にも使われます。

- シリンダヘッドとエグゾーストパイプをつないでいる冷却ホースのシリンダヘッド側の取付部に、ゴムのキャップがあります。



A. シリンダヘッド
B. 冷却ホース

C. クランプ
D. キャップ

- クランプをゆるめてキャップを外し、そこに水道のホースを接続します。



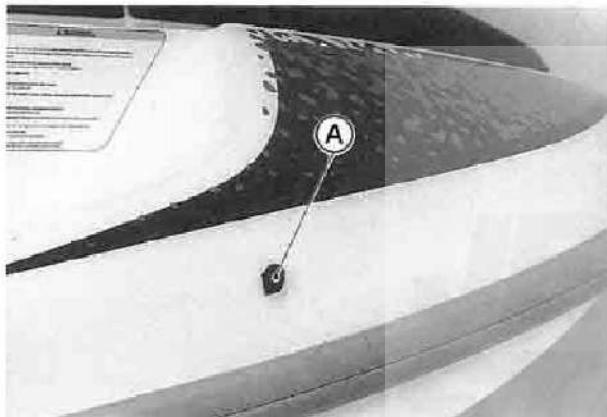
A. 水道ホース

- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注意

- 水を流す前に必ずエンジンをかけておいて下さい。先に水を流すと、エグゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷する恐れがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節して下さい。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回ふかせて排気系統から水を排出します。

注意

- 冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないで下さい。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷を引き起こすものになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりとクランプを締めます。

.....
ビルジ系統の洗浄
.....

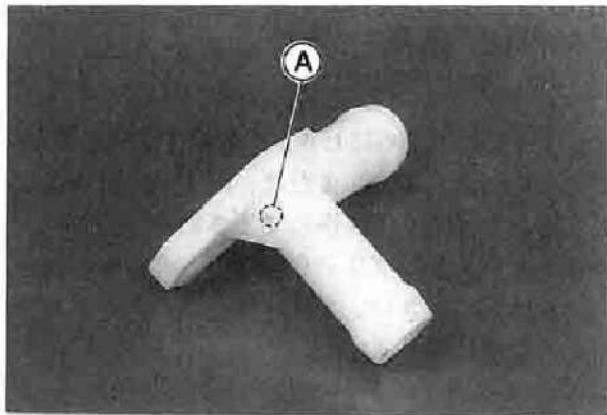
詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄して下さい。

- プラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外して下さい。ブリーザーはエンジンルームの右側にあります。



A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スタン（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- もう一本のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。
- プラスチックのブリーザにホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな孔が詰まっていないか確かめて下さい。もし孔が詰まっているば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通じて水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザを外す必要があるかも知れません。



A. ブリーザの孔

- ビルジホースをもと通りに接続します。

〈要 点〉

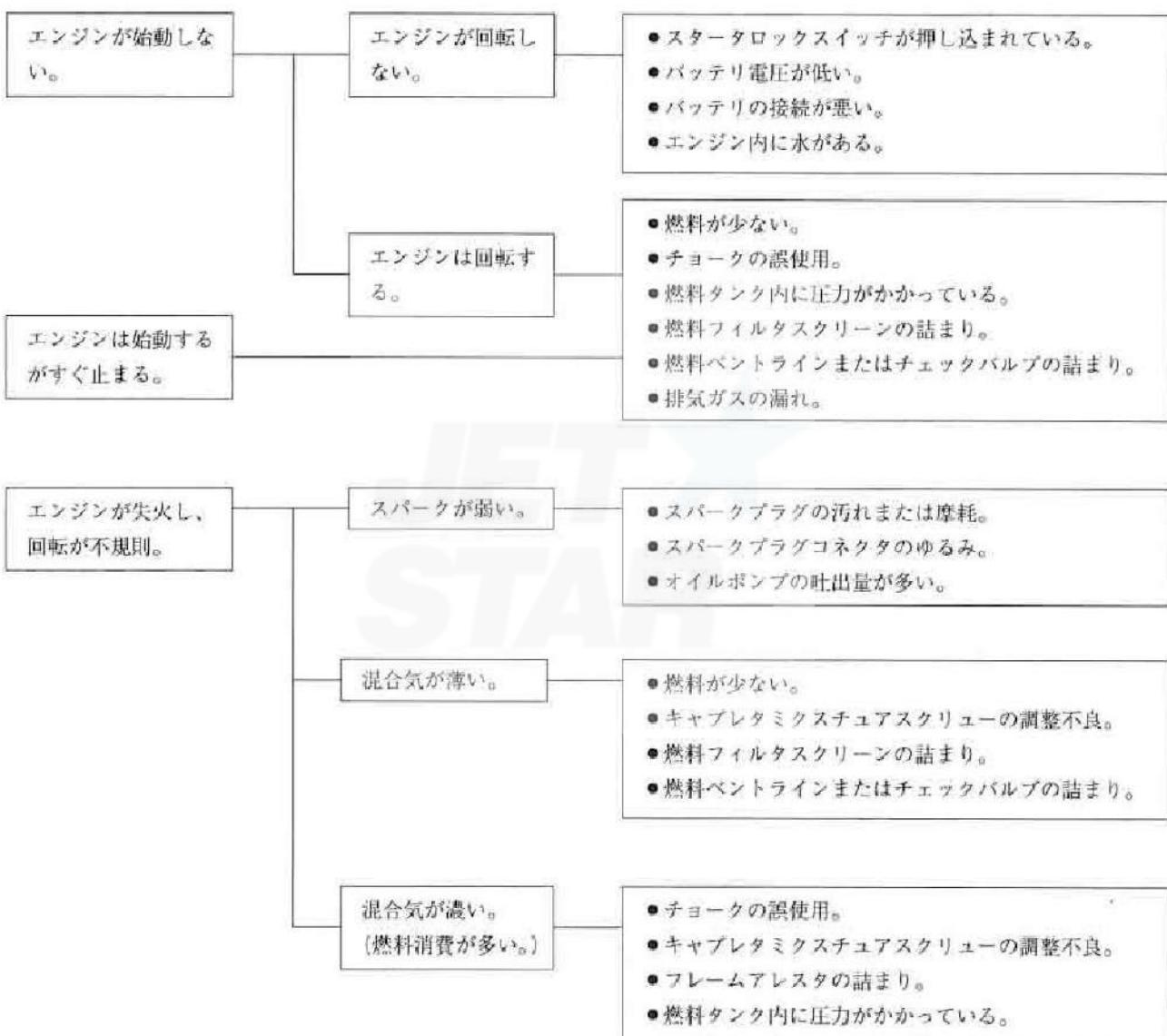
○ウォータークラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んで下さい。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

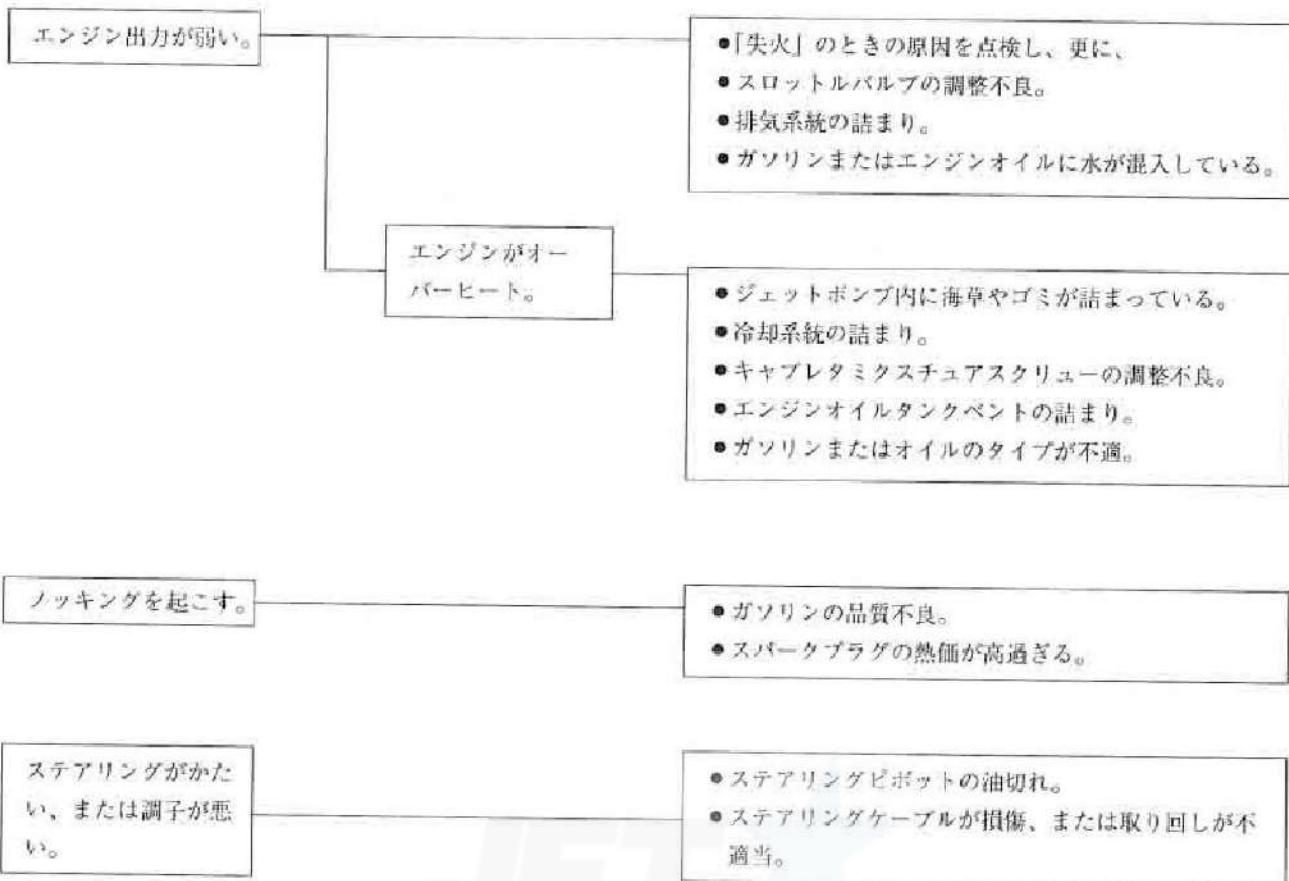
トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータークラフトのトラブルが確定できないときは、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店に相談するか、サービスマニュアルを参照して下さい。

トラブル

原因





▲注意

○ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、カワサキのウォータークラフト“ジェットスキー”の販売店でよく調べてもらって下さい。

船舶検査

船舶検査

ウォータークラフト“ジェットスキー”は法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行なう検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行なう定期検査と、その中間の3年毎に行なう中間検査があります。

● 定期検査

定期的に行なう精密な検査

● 中間検査

定期検査と定期検査との間で行なう簡易な検査

船舶検査証書など合格証書類

(1) 定期検査の場合

船舶に合格した小型船には、①船舶検査証書②船舶検査手帳③船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

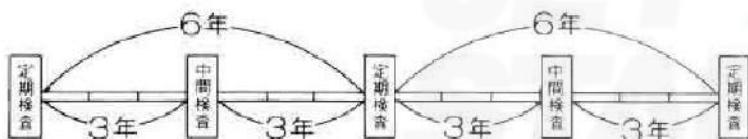
上記①および②の証書類は、ウォータークラフトを使うときには必ず船内に備えて下さい。また、③の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータークラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼りつけて下さい。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

(2) 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼って下さい。

船検の時期



航行区域

法律（船舶安全法）により、ウォータークラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

平水区域

平水区域とは、湖、川、港内、湾、などの波の静かな水域です。ただし、陸岸から2海里（約3.7km）を超えることはできません。

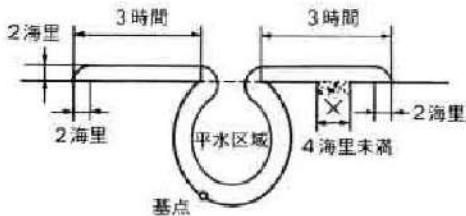


沿海区域

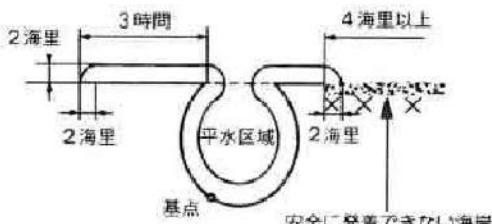
1. 主たる水域

沿海区域（平水区域を除く）で、ウォータークラフトが航走できるのは次のいずれかの水域です。

①ウォータークラフトが安全に発着できる基点（マリーナ）が平水区域にあり、その平水区域から有効最大速力で3時間以内に達することができる水域。ただし、陸岸から2海里（約3.7km）を超えることはできません。



もし、途中に安全に発着できない海岸が4海里（約7.4km）以上ある場合は、その場所の始まっている所から2海里（約3.7km）以内の水域まで。



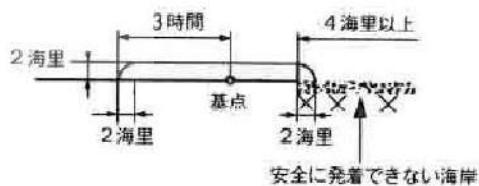
注意

○安全に発着できない海岸とは、海岸線に岩、崖、護岸（テトラポットや防波堤）、隠頭岩（潮の満ち引きにより見え隠れする岩、見えないが水深が十分がない岩）などがある海岸です。

②ウォータークラフトが安全に発着できる基点（マリーナ）が沿海区域にあり、その基点から有効最大速力で3時間以内に達することのできる水域。ただし、陸岸から2海里（約3.7km）を超えることはできません。



もし、途中に安全に発着できない海岸が4海里（約7.4km）以上ある場合は、その場所の始まっている所から2海里（約3.7km）以内の水域まで。



2. 追加できる水域

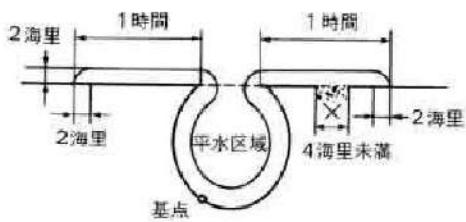
沿海区域（平水区域を除く）で、ウォータークラフトが航走できる追加水域は、次のいずれかの水域です。

ただし、追加する水域は2ヶ所以内です。

注意

○追加する水域は、従来の水域と連続していません。

①ウォータークラフトが安全に発着できる基点（マリーナ）が平水区域にあり、その平水区域から有効最大速力で1時間以内に達することができる水域。ただし、陸岸から2海里（約3.7km）を超えることはできません。



もし、途中に安全に発着できない海岸が4海里（約7.4km）以上ある場合は、その場所の始まっている所から2海里（約3.7km）以内の水域まで。

②ウォータークラフトが安全に発着できる基点（マリーナ）が沿海区域にあり、その基点から有効最大速力で1時間以内に達することのできる水域。ただし、陸岸から2海里（約3.7km）を超えることはできません。



もし、途中に安全に発着できない海岸が4海里（約7.4km）以上ある場合は、その場所の始まっている所から2海里（約3.7km）以内の水域まで。

母船に乗せて使用する場合

母船を中心として半径2海里（約3.7km）以内の水域及び平水区域の陸岸から2海里以内の水域に限ります。

注意

○母船に搭載してウォータークラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

MEMO

JET[®]
STAR

JT750-A1

**JET
STAR**

川崎重工業株式会社

C P 事 業 本 部

Part No. 99921-1459-01